

第2章 生物多様性に関する現状と課題

1. 自然の状況

(1) 基盤となる自然の状況

1) 気候

2019年（令和元年）の月別平均気温をみると、最も気温の低い1月（3.8℃）と最も気温の高い8月（27.3℃）の寒暖の差は少なく、過去3年間（2017年（平成29年）～2019年（令和元年））の年平均気温は15.0℃、年間降水量の平均は1,532mmとなっており、温暖で過ごしやすい気候といえます。

しかし、気候変動や都市化の影響を受けた気温の上昇傾向が見られ、夏場の最高気温が30℃を超える時間数を見ると、延べ時間数は年々増加傾向にあり、過去30年間の年平均気温は1度上昇しています。

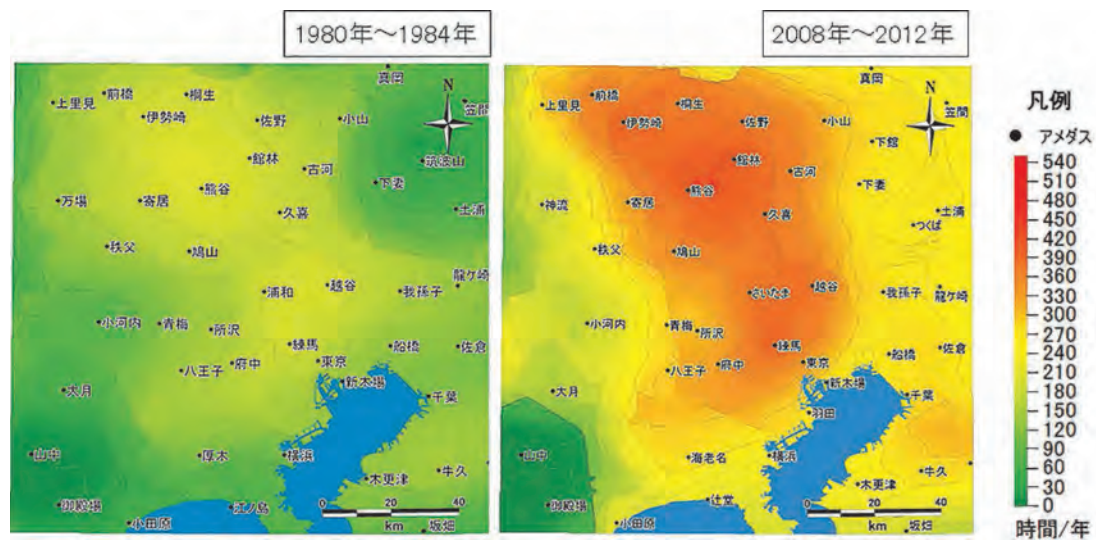


図2-1 関東地方における30℃以上の合計時間数の分布（5年間の年間平均時間数）

出典：環境省（2013・H25）「ヒートアイランド現象緩和に向けた都市づくりガイドライン」

2) 地形

標高は、最も高い地点が175.1m（狭山丘陵）で、最も低い地点は12.0m（柳瀬川下流）で、西から東に向かって緩やかに低くなっています。

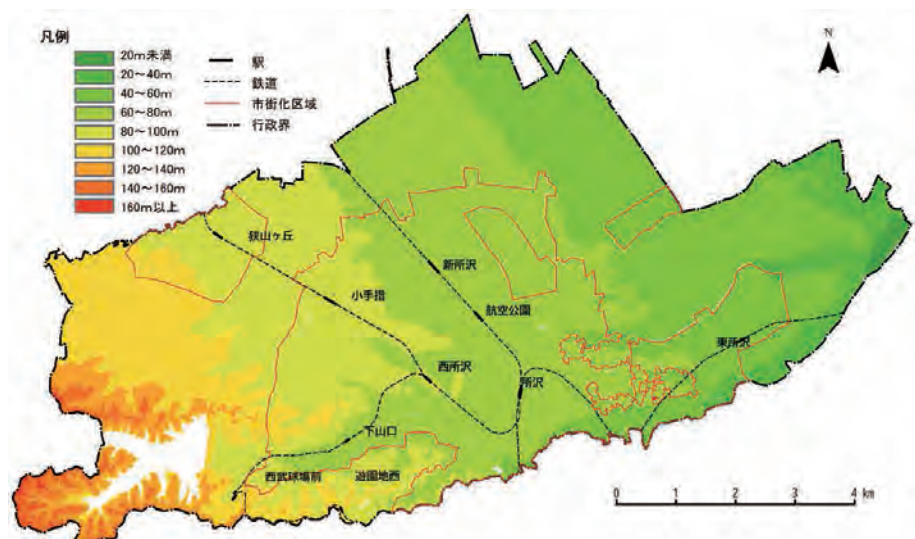


図2-2 標高

地形は、狭山丘陵と、武蔵野台地、柳瀬川等の河川沿いの低地の3つに大別されます。また、砂川堀沿いなどに浅い谷が見られます。台地と低地の境界には段丘崖*が分布し、高低差の大きい柳瀬川下流部の段丘崖などに斜面林*が残されています。一方、低地では、広い範囲で土を盛っての造成が進み、本来の地形が残されているのは、狭山丘陵の谷戸*の一部となっています。また、狭山丘陵や武蔵野台地上では土を削った造成が行われています。

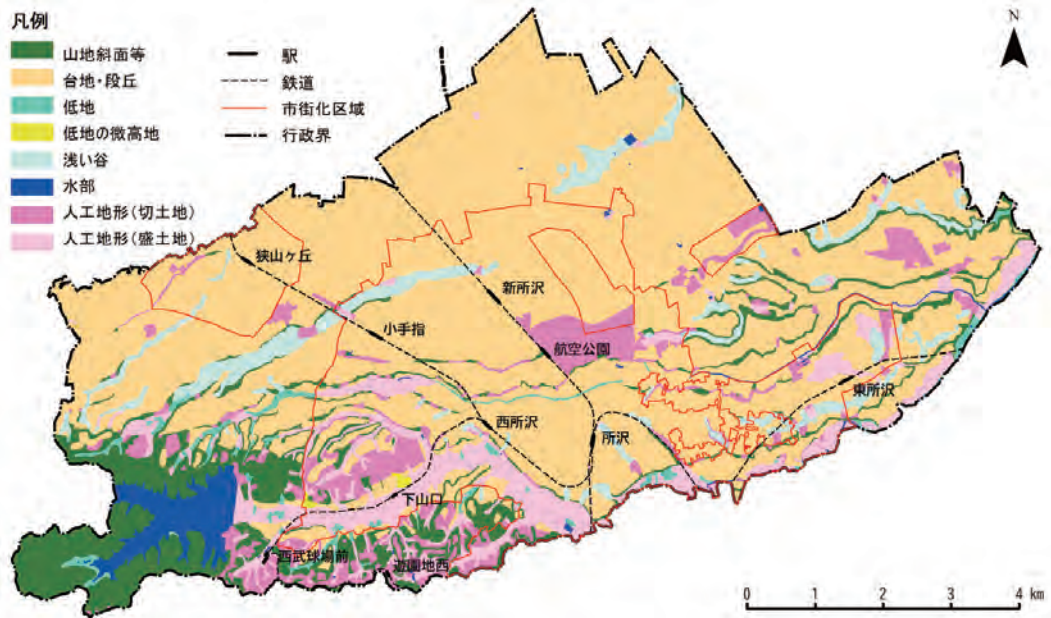


図 2-3 地形区分

3) 水系

市内には、荒川水系一級河川の柳瀬川、東川、不老川の3河川及び砂川堀、六ツ家川、樽井戸川等の多くの水路があります。その多くが狭山丘陵を水源として、ほぼ西から東へと市内を流下しています。狭山丘陵周辺の三ヶ島・山口地区や柳瀬川の河岸段丘崖には湧水が点在し、狭山丘陵周辺にはため池や湿地が形成されています。これらの湿地は、トンボの希少種の生息地であることを理由に、「狭山丘陵周辺の湿地」として環境省の「生物多様性の観点から重要度の高い湿地（重要湿地）」に選定されています。



図 2-4 水系

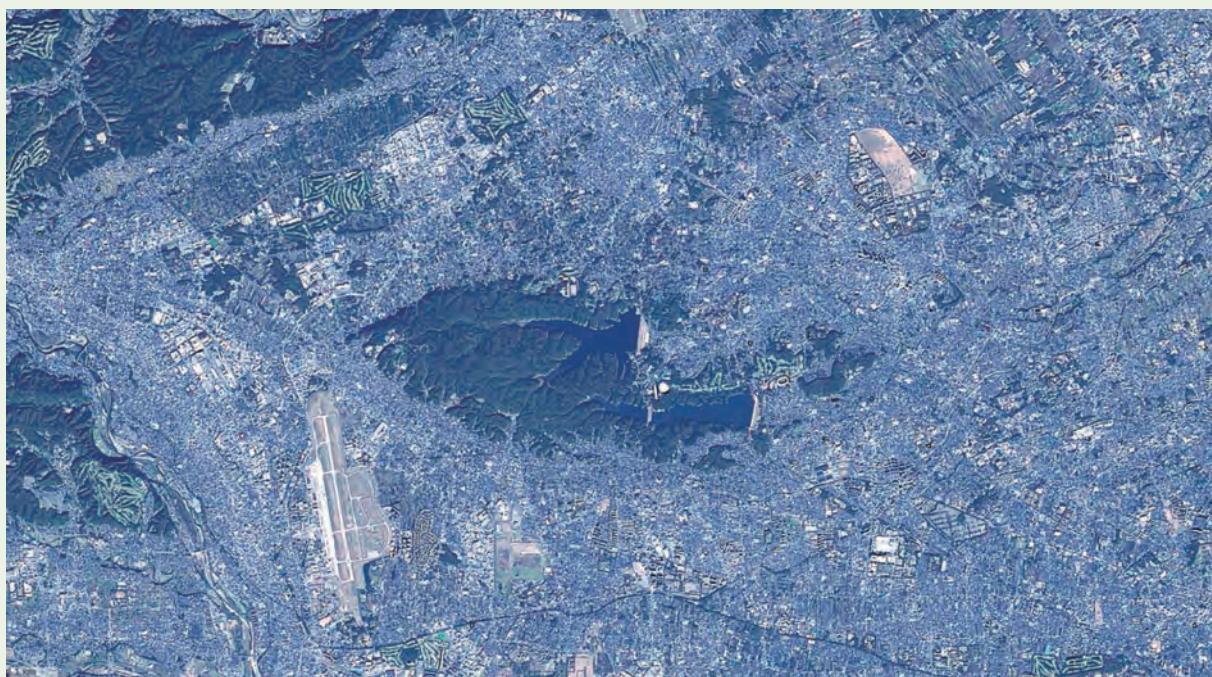


狭山丘陵

本市の西に広がる狭山丘陵は、埼玉県と東京都にまたがって位置する、東西11km、南北4km、面積約3,500haの広大な丘陵地です。市街地の中に浮かぶ島のように見えることから、「緑の島」と称されることもあります。



狭山丘陵



市街地に浮かぶ「緑の島」

出典：地理院タイル

丘陵の東側には、東京の水がめとして大正の終わりから昭和の初めにかけて、山口貯水池（狭山湖）と村山貯水池（多摩湖）が作られ、現在では水道用地として立ち入りが禁止されています。

標高は最高地点でも194mとあまり高くはありませんが、雑木林*、湿地、谷戸*などの多様な環境があり、湖の周辺は人が立ち入れないことなどから、豊かな自然が残され、多くの生きもののすみかになっています。

1997年（平成9年）には立ち入り禁止区域内も含めた自然環境調査が行われ、良好な水辺環境の指標となる生きものが、数多く確認されています。水辺環境の食物連鎖の頂点に位置するホンドイタチが狭山湖・多摩湖の岸辺に広く生息しているほか、狭山湖の沢沿いや周辺の樹林では、トウキョウサンショウウオやアカガエル類などが、沢沿いにはゲンジボタルも生息していました。

狭山丘陵では、昭和30年代以降、さまざまな開発が行われましたが、ナショナルトラスト活動*や行政の緑地保全制度*による保全指定、公園緑地化などにより自然の保全が進められ、今では首都圏に残された自然の宝庫として、また、自然とのふれあいの場として、その価値はさらに高まっています。

(2) 生物多様性の現状

1) 生きものの確認記録

これまでに発行された研究論文や報告書、観察記録などの文献資料を収集整理し、市内で生息・生育が確認されている生きものを整理しました。

① 確認記録の概要

1940年代～2019年（令和元年）までの230点の文献資料から、動物2,879種（哺乳類21種／鳥類215種／爬虫類15種／両生類12種／魚類35種／昆虫類2,581種）と、植物1,452種の記録が得られました（リストは担当部局（環境クリーン部みどり自然課）の窓口で確認していただけます）。

埼玉県内の平野部に位置する自治体の中では生きものの情報の記録が最も多く、生きものの豊かな生物多様性に富んだ地域であることを反映しています。

A. 哺乳類

市域は、秩父山地の森林帯との直接のつながりを持たない平野部に位置することから、ツキノワグマやニホンカモシカのような大型哺乳類の確認例はなく、ホンドキツネやアナグマ、ホンドカヤネズミ等の中・小型哺乳類が記録されています。アズマモグラやアブラコウモリ、イエネズミ類は、市内全域に幅広く生息していますが、他の種は自然環境が良好な場所を中心に分布が点在しています。なかでも狭山丘陵では21種全ての哺乳類が記録されています。

B. 鳥類

1987年（昭和62年）に市内全域を対象とした鳥類調査が市によって実施され、市内に定着している野鳥として「繁殖鳥」59種と「越冬鳥」90種が報告されています。狭山湖で越冬するカモ・カイツブリ類などの他は水鳥類が少なく、オオタカなどの猛禽類*や森林に生息する鳥類が豊かであることに特徴があり、現在に至るまで大きな変化はありません。

C. 爬虫類

トカゲ・ヤモリ類3種、ヘビ類7種、カメ類5種が確認されています。在来種*のほとんどが希少種であり、ニホンカナヘビ以外の在来種を市内で見る機会は減っています。

D. 両生類

カエル類、イモリ・サンショウウオ類で構成され、全て水辺との結びつきの強い種類です。市内には水辺環境が少ないため、アズマヒキガエルとニホンアマガエルを除き、両生類の生息は狭山丘陵とそこから流れ出る河川・湿地に限定的です。

E. 魚類

市内で魚類が生息する主な水域は、狭山湖と丘陵を水源とする柳瀬川、東川、砂川堀等の河川・水路です。水質汚染や人工護岸化などの影響により、一時はアユやニホンウナギなどの回遊魚（河川の上下流を移動している魚）をはじめ、モツゴ、ウグイ、オイカワなどの河川中流や池で普通に見られた魚が減少しました。近年、水質の改善などにより分布が回復しつつあるとの報告があります。

F. 昆虫類

昆虫の記録が多く得られたのは、チョウ類やトンボ類、コウチュウ類等の良好な生息地として狭山丘陵が知られており、数多くの調査報告があるためです。近年では、平地林*や河川沿いの観察記録もあります。県内有数の昆虫確認種数を誇る地域である一方、クロシジミ、ツマグロキチョウ、ゲンゴロウなどすでに姿を消したとして報告される昆虫がいます。

G. 植物

植物の記録が多く得られたのは、狭山丘陵が植物相の豊かな場所として知られ、採集や調査の報告が多いためです。また、自然環境の基盤要素として、市内各地の調査が多いことも要因の一つです。

植物相の特徴は、狭山丘陵で森林や湿地の植物の他に山地の植物も見られることに加え、平地林周辺や河川沿いなどで、かつての武蔵野台地に広がっていたカヤ原に由来すると考えられる草地の植物が見られることです。

表 2-1 文献資料動植物記録種総括

評価区分 対象分類群			記録種数		重要種区分																		外来種区分			備考	
					法令指定種			レッドリスト掲載種													外来種	特定外来生物	防止外来種	生態系被害			
								文化庁	環境省	埼玉県	EX	EW	CR	EN	VU	NT	DD	LP	RT								
			科	種		全国	県	全国	県	全国	県	全国	県	全国	県	全国	県	全国	県	全国	県	全国					
動物	哺乳類		10	21									1 (1)		1 (2)					(8)	6	2	6	※1			
	鳥類		53	215		1				1	5	1	6	5	10	6	16	1	2		11	3	2	2	※2		
		繁殖鳥 越冬鳥								1	5	1	6	5	2	6	11	1	1		8						
	爬虫類		9	15									1	2		6		1		1	3	1	2				
	両生類		7	12			1			1		2	1	2	2	4					2	1	2				
	魚類		13	35	1	1			1	1	3	3		3	3	3	2	1			5	1	3				
	昆虫類		278	2,581				1			1	5	6	10	4	17	12	69	6	4		3	8	6	1	2	※3
合計			370	2,879	1	1	1		1		1	3	14	10	18	14	34	23	97	8	7		3	20	25	8	17

【維管束植物】	植物	シダ類		23	114								7	2	8	1	9										
		種子植物	裸子植物		5	23												1						8			
			離弁花類		140	591				4			1	7	1	8	7	8	7	14					114	1	21
			合弁花類		53	356				1				8	2	19	11	13	6	21					84	2	22
			単子葉類		162	368				3				1	9	1	16	7	10	6	30		3			57	
	合計			167	1,452					8			2	24	4	50	27	39	20	75		3			263	3	70

※1 () は埼玉県レッドデータブック 2008 動物編の категория 該当種

※2 鳥類の法令指定種・レッドリスト掲載種については、所沢市内で、生息地や生息環境との結びつきを明確に示す「繁殖鳥」及び「越冬鳥」の記録が得られた種を抽出。同一種で繁殖鳥・越冬鳥の両方において埼玉県レッドデータブックに category 付けされた種については、各1種としてカウント。

※3 CR+EN と評価された種（ミツモンケンモン）は各1種としてカウント

■法令指定種 文化庁：天然記念物（文化財保護法）、環境省：国内希少野生動植物種（種の保存法）
埼玉県：県内希少野生動植物種（希少野生動植物保護条例）

■レッドリスト・カテゴリー EX：絶滅、EW：野生絶滅、CR：絶滅危惧ⅠA類、EN：絶滅危惧ⅠB類、VU：絶滅危惧Ⅱ類、NT：準絶滅危惧、DD：情報不足、LP：絶滅の恐れのある地域個体群、RT：地帯別危惧（全県評価）
【環境省：環境省レッドリスト 2019、埼玉県：レッドデータブック植物編 2011、動物編 2018】

■外来種区分 特定外来生物（外来生物法指定種）、生態系被害防止外来種リスト：侵入予防外来種・その他の定着予防外来種・緊急対策外来種・重点対策外来種・その他の総合対策外来種・産業管理外来種

② 絶滅の危機にある生きもの（希少生物）の確認状況

環境省及び埼玉県のレッドリスト*に記載されている「絶滅の危機にある生きもの（希少生物）」は、動物 215 種（哺乳類 11 種／鳥類 48 種／爬虫類 10 種／両生類 9 種／魚類 11 種／昆虫類 126 種）と、植物 207 種が確認されています。

A．絶滅（EX）：すでに絶滅したと考えられる種

市内で確認記録があるものの、すでに全県レベルで「絶滅種」に位置づけられている種としては、チョウ類のクロシジミと植物のヨウラクラン、ヤマトキソウ、ツルカノコソウ等の 8 種があります。

B．野生絶滅（EW）：飼育下でのみ存続している種

柳瀬川産のミヤコタナゴが飼育下の状態で系統保存されています。

C．絶滅危惧ⅠA類（CR）：ごく近い将来における野生での絶滅の可能性が極めて高い種

アカハライモリ、ヤリタナゴ、ホトケドジョウ、エゾトンボ等の 17 種の動物と、アギナシ、サワギキョウ、キキョウ等の 25 種の植物が確認されています。

D．絶滅危惧ⅠB類（EN）：ⅠA類ほどではないが、近い将来における野生での絶滅の危険性が高い種

サンコウチョウ、トウキョウサンショウウオ、クツワムシ、カヤコオロギ等の 25 種の動物と、サンショウモ、キンラン、コ克蘭、オミナエシ等の 58 種の植物が確認されています。

E．絶滅危惧Ⅱ類（VU）：埼玉県において絶滅の危険が増大している種

ヤマコウモリ、トモエガモ、ニホンアカガエル、オオムラサキ、ゲンジボタル等の 41 種の動物と、ギンラン、ノハナショウブ、レンゲツツジ、センブリ等の 63 種の植物が確認されています。

現在では、すでに市内から姿を消した希少生物もありますが、今回明らかになった希少生物リストをもとに、動植物調査を進めるとともに、希少動植物の生息・生育地の保全管理を行い、かつての分布を取り戻す取り組みを実施することが望まれます。

③ 外来生物の確認状況

「外来生物」は、人間の活動によって海外や国内の他の地域から、意図する・意図しないにかかわらず、持ち込まれた生きものです。外来生物が起こしている問題としては、生物多様性や生態系*への影響、人の命や体への影響、農業や漁業への影響があります。

外来生物のうち特に問題が大きい種類は、法律によって「特定外来生物*」に指定されています。また、環境省と農林水産省により、幅広く生態系に被害を及ぼす外来生物を選定した「生態系被害防止外来種リスト*」が作成されています。

A. 特定外来生物

特定外来生物は、動物 8 種（哺乳類 2 種／鳥類 2 種／爬虫類 1 種／両生類 1 種／魚類 1 種／昆虫類 1 種）と、植物 3 種の計 11 種が確認されています。

哺乳類は、近年急速に分布を広げているアライグマと狭山丘陵周辺で対策が進められているキタリス、鳥類では、中国大陸からの外来種で声や姿が目立つガビチョウとソウシチョウ、両生類と魚類は、各地の水辺で普通に見られるようになったウシガエルとオオクチバス、爬虫類は、大型で人への危害が注目されているカミツキガメ、昆虫類は、クヌギやエノキの雑木林*に生息しゴマダラチョウやオオムラサキとの競合が懸念されるアカボシゴマダラが該当します。

植物は、アレチウリとオオキンケイギク、オオカワヂシャの 3 種で、造成地・荒廃地や河原などの水辺で目に付く存在となっています。

B. 「生態系被害防止外来種リスト」掲載種

「生態系被害防止外来種リスト」の掲載種には、動物 17 種、植物 70 種が該当します。

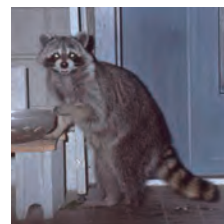
カテゴリ区分（カテゴリ区分は 102 ページ参照）別に見ると、「定着予防外来種」の確認例はなく、「緊急対策外来種」はクマネズミとアカミミガメ（ミドリガメ）に特定外来生物の 7 種を加えた計 9 種が該当し、「重点対策外来種」はハクビシン、タイリクバラタナゴ、オオブタクサ、セイタカアワダチソウ等の計 30 種が該当します。

解 説

本市における特定外来生物への対応

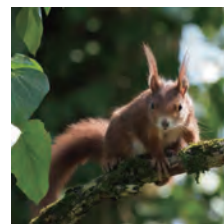
■アライグマ

特定外来生物であるアライグマは、市内全域に生息していると予測され、農作物のほか、小動物や野鳥の卵などを食べて生物多様性に悪影響を与えています。2007 年度（平成 19 年度）から実施している「埼玉県アライグマ防除実施計画」に基づく計画的防除を継続して実施しています。



■キタリス

狭山丘陵では、2000 年（平成 12 年）に特定外来生物であるキタリスが確認され、2014 年度（平成 26 年度）～ 2016 年度（平成 28 年度）にかけて環境省による防除事業が実施されました。その結果、現在は根絶に近い状況になっていると予想されていますが、今後も防除事業を継続することになっています。



2) 指標動植物の生息生育状況

① 調査の概要

エコロジカルネットワークの形成や、生物多様性への理解の向上、生きものとのふれあいの促進などに役立てることを目的として、主に次に示すような観点から125種の生きものを「指標動植物」として選定し（表2-3参照）、現地調査によって生息・生育状況を確認しました。

■ 指標動植物の選定の主な観点

- ア．生きものの食う・食われるの関係の上位に位置している（上位性）
- イ．人による影響が少ない環境など、自然度の高い環境に生息する（自然性）
- ウ．希少性が高く、積極的な保護が望まれる（希少性）
- エ．色が美しい、形が面白い、昔からなじみ深いなど、多くの人が興味を持つ（普及性）

調査地は、自然のまとまりや連続性、周辺の都市化の状況、継続的な調査などを考慮して設定しました（表2-2、図2-5）。

表2-2 調査地一覧

調査エリア	調査地区
A．狭山丘陵	① 早稲田大学所沢校地周辺緑地／② 菩提樹池周辺緑地／③ 荒幡富士周辺緑地
B．三富・くぬぎ山等平地林	④ 北中・東狭山ヶ丘平地林／⑤ 旧鎌倉街道周辺平地林／⑥ 西部下富平地林
C．柳瀬川段丘崖斜面林	⑦ 淵の森河岸緑地／⑧ 滝の城址公園周辺
D．市街化区域周辺の自然拠点	⑨ 小手指ヶ原公園計画地周辺／⑩ 若狭・北野調節池周辺平地林 ⑪ 所沢カルチャーパーク周辺平地林
E．まちなかの自然拠点	⑫ 緑町中央公園周辺／⑬ 所沢航空記念公園周辺／⑭ 東所沢公園周辺
F．柳瀬川	⑮ 山口区間（上流）／⑯ 吾妻・松井区間（中流）／⑰ 柳瀬区間（下流）
G．東川	⑱ 小手指区間（上流）／⑲ 所沢・松井区間（中流）／⑳ 柳瀬区間（下流）
H．砂川堀	㉑ 三ヶ島・小手指区間（上流）／㉒ 富岡区間（下流）
I．樹林と一体になった農地	㉓ 北中・下富・中富農耕地／㉔ 日比田・南永井農耕地

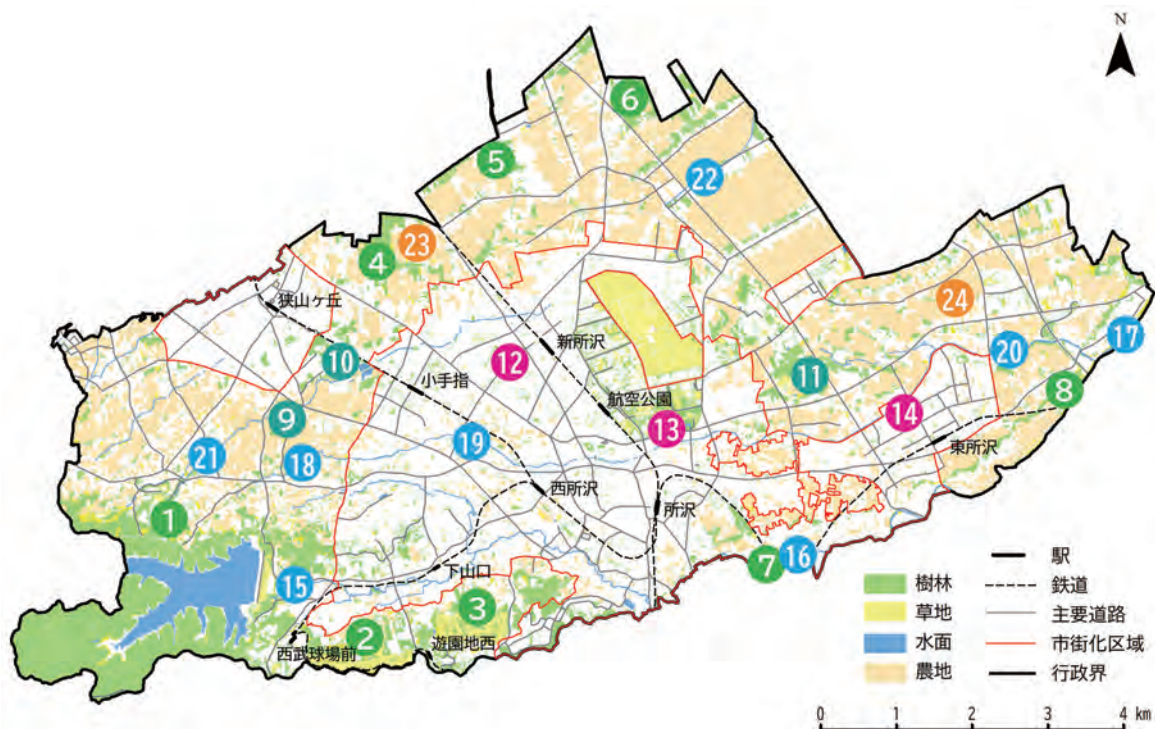


図2-5 調査地位置

② 調査結果

2019 年（令和元年）6 月～2020 年（令和 2 年）7 月の現地調査で指標動植物 125 種のうち 115 種が確認されました。

表 2-3 指標動植物確認状況

調査エリア		種名	狭山丘陵	三富・くぬぎ山等平地林	柳瀬川段丘崖斜面林	市街地周辺の自然拠点	まちなかの自然拠点	柳瀬川	東川	砂川堀	樹林と一体となった農地
哺乳類	1. ヒミズ										
	2. アズマモグラ										
	3. アブラコウモリ										
	4. キュウシュウノウサギ										
	5. ホンドカヤネズミ										
	6. ホンドタヌキ										
	7. ホンドキツネ										
	8. ホンドイタチ										
鳥類	1. キジ										
	2. カルガモ										
	3. コガモ										
	4. カンムリカイツブリ										
	5. アオサギ										
	6. ツミ										
	7. オオタカ										
	8. カワセミ										
	9. コゲラ										
	10. アオゲラ										
	11. モズ										
	12. オナガ										
	13. ヤマガラ										
	14. シジュウカラ										
	15. ヒバリ										
	16. ツバメ										
	17. ウグイス										
	18. エナガ										
	19. メジロ										
	20. オオヨシキリ										
	21. ツグミ										
	22. ジョウビタキ										
	23. キビタキ										
	24. ハクセキレイ										
	25. ホオジロ										
爬虫類	1. ヒガシニホントカゲ										
	2. ニホンカナヘビ										
	3. アオダイショウ										
	4. シマヘビ										
	5. ヒバカリ										
	6. ヤマカガシ										
両生類	1. トウキョウサンショウウオ										
	2. アカハライモリ										
	3. アズマヒキガエル										
	4. トウキョウダルマガエル										
	5. ニホンアカガエル										
	6. ヤマアカガエル										
	7. シュレーゲルアオガエル										
	8. ニホンアマガエル										
魚類	1. アユ										
	2. アブラハヤ										
	3. オイカワ										
	4. モツゴ										
	5. コイ										
	6. ヤリタナゴ										
	7. ミヤコタナゴ										
	8. ドジョウ										
	9. ホトケドジョウ										
	10. ミナミメダカ										
	11. ウキゴリ										
	12. ニホンウナギ										
甲殻類	1. サワガニ										
	2. モクズガニ										
	3. スジエビ										
	4. ヌカエビ										
	5. テナガエビ										

調査エリア		種名	狭山丘陵	三富・くぬぎ山等平地林	柳瀬川段丘崖斜面林	市街地周辺の自然拠点	まちなかの自然拠点	柳瀬川	東川	砂川堀	樹林と一体となった農地	
チョウ類	1. キアゲハ											
	2. ムラサキシジミ											
	3. アカシジミ											
	4. ミドリシジミ											
	5. ベニシジミ											
	6. コムラサキ											
	7. オオムラサキ											
	8. ゴマダラチョウ											
	9. ジャノメチョウ											
	10. ミヤマセセリ											
トンボ類	1. ハグロトンボ											
	2. ヒガシカワトンボ											
	3. ムカシヤンマ											
	4. サラサヤンマ											
	5. ギンヤンマ											
	6. オニヤンマ											
	7. シオカラトンボ											
	8. アキアカネ											
	9. ヒメアカネ											
	10. コシアキトンボ											
コウチュウ類	1. ノコギリクワガタ											
	2. コクワガタ											
	3. カブトムシ											
	4. カナブン											
	5. コアオハナムグリ											
	6. ヤマトタムシ											
	7. ゲンジボタル											
	8. ハイケボタル											
	9. シロスジカミキリ											
	10. ナナホシテントウ											
コオロギ類・バッタ	1. スズムシ											
	2. クツムシ											
	3. ヒガシキリギリス											
	4. エンマコオロギ											
	5. カヤコオロギ											
	6. トノサマバッタ											
動物合計（100 種）			78	56	52	61	38	57	49	44	27	
植物	草本類（野草）	1. カタクリ										
		2. キンラン										
		3. サイハイラン										
		4. クチナシグサ										
		5. リンドウ										
		6. ホタルブクロ										
		7. ワレモコウ										
		8. ヤマユリ										
		9. チガヤ										
		10. ススキ										
	木本類（樹木）	1. モミ										
		2. シラカシ										
		3. ヤブツバキ										
		4. ケヤキ										
		5. エノキ										
植物合計（25 種）			25	23	19	23	16	15	14	16	8	
合 計（125 種）			103	79	71	84	54	72	63	60	35	

A. 狭山丘陵

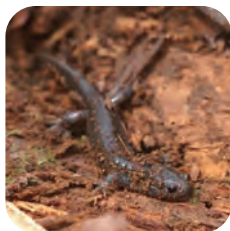
樹林、草地、湿地、池などの多様な環境があることから、125 種中 103 種（動物 100 種中 78 種、植物 25 種中 25 種）と、設定した調査エリアの中で最も多くの種類が確認されています。

「狭山丘陵」のみで確認された動物は、オオヨシキリ、トウキョウサンショウウオ、ヤマアカガエル、シュレーゲルアオガエル、オオムラサキ、サラサヤンマ、ヒメアカネ、ゲンジボタル、ハイケボタル、植物はカタクリとハンノキです。これらの生きものの多くは早稲田大学周辺緑地で確認されており、ヤマアカガエル、シュレーゲルアオガエル、サラサヤンマは、菩提樹池^{ぼだいぎ}周辺緑地においても確認されています。一方、カタクリは荒幡富士周辺緑地などで、ハンノキは菩提樹池周辺緑地のみで確認されています。

また、他の調査エリアでも確認されているものの、市内での確認場所が限られている種として、ホンドカヤネズミ、ホンDOIタチ、ヒバカリ、ヤマカガシ、ニホンアカガエル、アブラハヤ、コムラサキなどがあげられます。



オオヨシキリ



トウキョウサンショウウオ



ヤマアカガエル



シュレーゲルアオガエル



オオムラサキ



サラサヤンマ



ヒメアカネ



ゲンジボタル



ハイケボタル



カタクリ

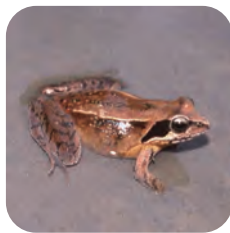
B. 三富・くぬぎ山等平地林

125 種中 79 種（動物 100 種中 56 種、植物 25 種中 23 種）と、樹林や草地に生息する生きものの大部分が確認されています。樹林や草地に生息する生きもので今回の調査で確認されなかったものとしては、ホンドキツネ、ホンドカヤネズミ、オオムラサキがあげられますが、近年の記録などからホンドキツネについては生息している可能性が高いと考えられます。また、ヒミズとカヤコオロギは本調査エリアのみで確認されていますが、他の調査エリアにも生息していると考えられます。

本調査エリアは台地上の水辺が少ない場所ですが、アズマヒキガエルやニホンアカガエル、ニホンアマガエルなどのカエル類や、ギンヤンマ、シオカラトンボなどの飛翔能力の高いトンボ類が確認されています。これら、水辺環境との結びつきが強い生きものは、農家の庭の池や、ビオトープ*として作られた池などの人工的な水辺を利用している可能性があります。



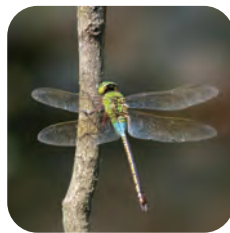
アズマヒキガエル



ニホンアカガエル



ニホンアマガエル



ギンヤンマ



シオカラトンボ

C. 柳瀬川段丘崖*斜面林

125 種中 71 種（動物 100 種中 52 種、植物 25 種中 19 種）が確認されています。平地林*に対して、形が帯状で外部からの影響を受けやすいこと、草地環境が少ないことなどから、確認種数はやや少なくなっています。

哺乳類はまちなかでも確認されているアズマモグラとアブラコウモリに限られますが、鳥類はオオタカ、ツミなどの高次消費者*をはじめ、大部分の種類が確認されています。また、柳瀬川に近く、斜面からの湧水による池などもあることから、アオサギ、カワセミなどの水辺の鳥類や、ヒガシカワトンボ、オニヤンマ、コシアキトンボなどのトンボ類などが確認されています。



オオタカ



ツミ



ヒガシカワトンボ



オニヤンマ



コシアキトンボ

D. 市街化区域*周辺の自然拠点

125 種中 84 種（動物 100 種中 61 種、植物 25 種中 23 種）が確認されています。特筆すべきは、郊外の規模が大きな平地林のエリアである「三富・くぬぎ山等平地林」での確認種の大部分が確認されている点です。加えて、ホンドカヤネズミ、ホンドキツネ、コガモ、アオサギ、カワセミ、コムラサキ、ハグロトンボ、シオカラトンボ、コシアキトンボが確認されています。これは、調査地内に河川や調整池の水辺などがあり、環境の多様性が高いことが要因となっています。



ホンドカヤネズミ



ホンドキツネ



カワセミ



コムラサキ



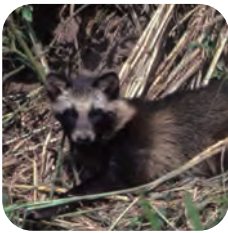
ハグロトンボ

E. まちなかの自然拠点

125 種中 54 種（動物 100 種中 38 種、植物 25 種中 16 種）が確認されています。

「市街化区域周辺の自然拠点」と比較すると、動物の確認種数は 61 種から 38 種に、植物の確認種数は 23 種から 16 種へと少なくなっています。理由としては、自然地の面積が小さいことや環境の多様性が低いことのほか、公園利用者による影響などが考えられます。

一方、比較的自然度の高い環境に生息する、ホンダタヌキやコゲラ、ヒガシニホントカゲ、アズマヒキガエル、ムラサキシジミ、ゴマダラチョウ、オニヤンマ、コクワガタ、カブトムシ、ヒガシキリギリスなどが確認されており、身近な自然や生きものとのふれあいの場となる高い潜在力を持っています。



ホンダタヌキ



コゲラ



ヒガシニホントカゲ



アズマヒキガエル



ムラサキシジミ



ゴマダラチョウ



オニヤンマ



コクワガタ



カブトムシ



ヒガシキリギリス

F. 柳瀬川

125 種中 72 種（動物 100 種中 57 種、植物 25 種中 15 種）が確認されています。河川の中では動物の確認種数が最も多く、「柳瀬川」のみで確認された水辺の生きものとしては、上流域でアブラハヤ、ヤリタナゴ、テナガエビ、ヒガシカワトンボが、中流域でアユ、ウキゴリ、モクズガニが、下流域でホンDOIタチ、アユ、ウキゴリ、モクズガニがあげられます。ホンDOIタチは水辺の高次消費者（食う・食われるの関係の上位の生きもの）であり、餌となる両生類、魚類、昆虫類などが多い良好な環境があること示しています。また、アユ、ウキゴリ、モクズガニは河川の上下流を移動する生態を持っており、柳瀬川の上下流の連続性が確保されていることを反映しています。ヤリタナゴは、ミヤコタナゴ※と同様にマツガサガイなどの二枚貝に産卵する生態を持っており、本種の生息はミヤコタナゴの生息に適した環境がある可能性を示しています。

※ミヤコタナゴ：昭和 50 年代まで柳瀬川の上流域に生息していたコイ科の淡水魚です。国の天然記念物*に指定されており、埼玉県下では野生絶滅の状態にあり、埋蔵文化財調査センターで人工増殖が行われています。



ホンDOIタチ



アユ



ウキゴリ



モクズガニ



ヤリタナゴ

G. 東川

125 種中 63 種（動物 100 種中 49 種、植物 25 種中 14 種）が確認されています。

水辺の生きものとしては、鳥類はカルガモ、コガモ、アオサギ、カワセミ、ハクセキレイ、爬虫類はヤマカガシ、両生類はアズマヒキガエル、ニホンアマガエル、魚類はオイカワ、モツゴ、ドジョウ、ミナミメダカ、甲殻類はスジエビ、昆虫類はハグロトンボ、ギンヤンマ、シオカラトンボ、アキアカネなどのトンボ類が確認されています。

希少種であるカワセミやヤマカガシ、ミナミメダカが確認されている点が注目されます。

H. 砂川堀

125 種中 60 種（動物 100 種中 44 種、植物 25 種中 16 種）が確認されています。

水辺の生きものとして、鳥類はカルガモ、コガモ、アオサギ、カワセミ、ハクセキレイ、爬虫類はヒバカリ、両生類はニホンアマガエル、魚類はモツゴ、ドジョウ、ミナミメダカ、昆虫類はハグロトンボ、ギンヤンマ、オニヤンマ、シオカラトンボ、アキアカネなどのトンボ類が確認されています。

魚類のうち下流域で確認されたのはモツゴのみであり、水の中の生物多様性は低い状況でした。上流域の土の岸辺が残る場所で希少種であるカワセミやヒバカリ、ミナミメダカが確認されている点が注目されます。



カワセミ



ヒバカリ



ヤマカガシ



ミナミメダカ

I. 樹林と一体になった農地

125 種中 35 種（動物 100 種中 27 種、植物 25 種中 8 種）が確認されています。

草地の生きものとして、哺乳類はアズマモグラ、アブラコウモリ、キュウシュウノウサギが、鳥類はキジ、モズ、ヒバリ、ツグミ、ジョウビタキ、ホオジロが、爬虫類はヒガシニホントカゲ、ニホンカナヘビ、昆虫類はキアゲハ、ベニシジミ、コアオハナムグリ、ナナホシテントウ、ヒガシキリギリス、エンマコオロギ、トノサマバッタなどが確認されています。

広い草地環境や隠れ場所となる林などが生息に必要なキュウシュウノウサギが確認されている点が注目されます。



キュウシュウノウサギ



キジ



モズ



ヒバリ



ヒガシニホントカゲ

(3) 生物生息空間

1) 生物生息空間の分布

市内に見られる環境を、主に生きものの生息・生育の観点から、以下の12の「生物生息空間*」として区分しました。

表 2-4 生物生息空間の区分

環境タイプ	生物生息空間
樹林環境	樹林
	樹木植栽地
	樹木畑
	樹木の多い住宅地
草地環境	乾いた草地
	人工草地
	畑
	茶畑
水辺環境	湿地
	水田
	湖・池
	河川・水路

生物生息空間の分布を図 2-6 に整理しました。

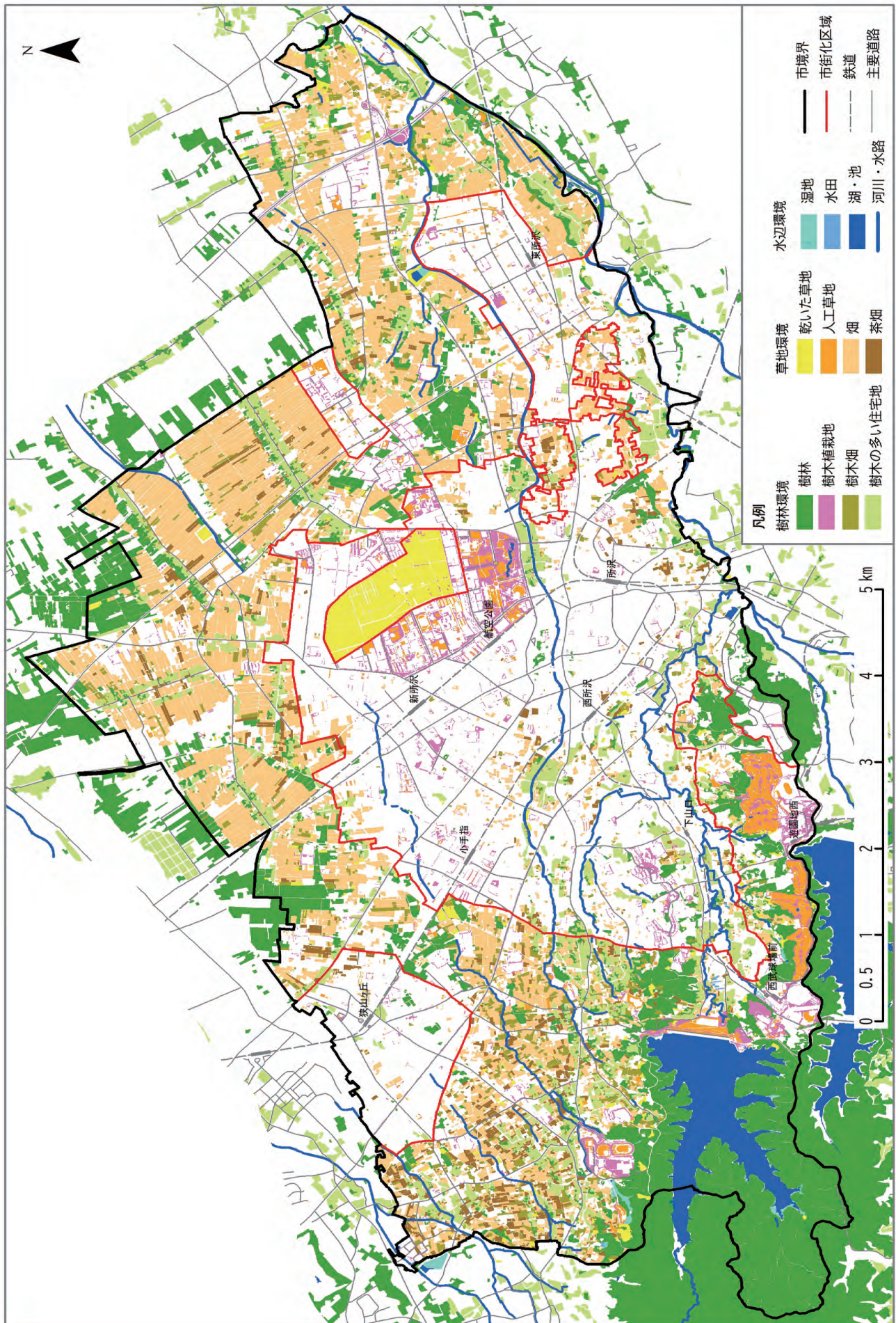


図 2-6 生物生息空間の分布

2) 生物生息空間の状況

① 樹林環境

A. 樹林

樹林の種類には「落葉広葉樹林*」「常緑広葉樹林*」「針葉樹人工林」「竹林」「屋敷林*」などがあります。このうち最も広いのは「落葉広葉樹林」で、樹林全体の約8割を占めています。

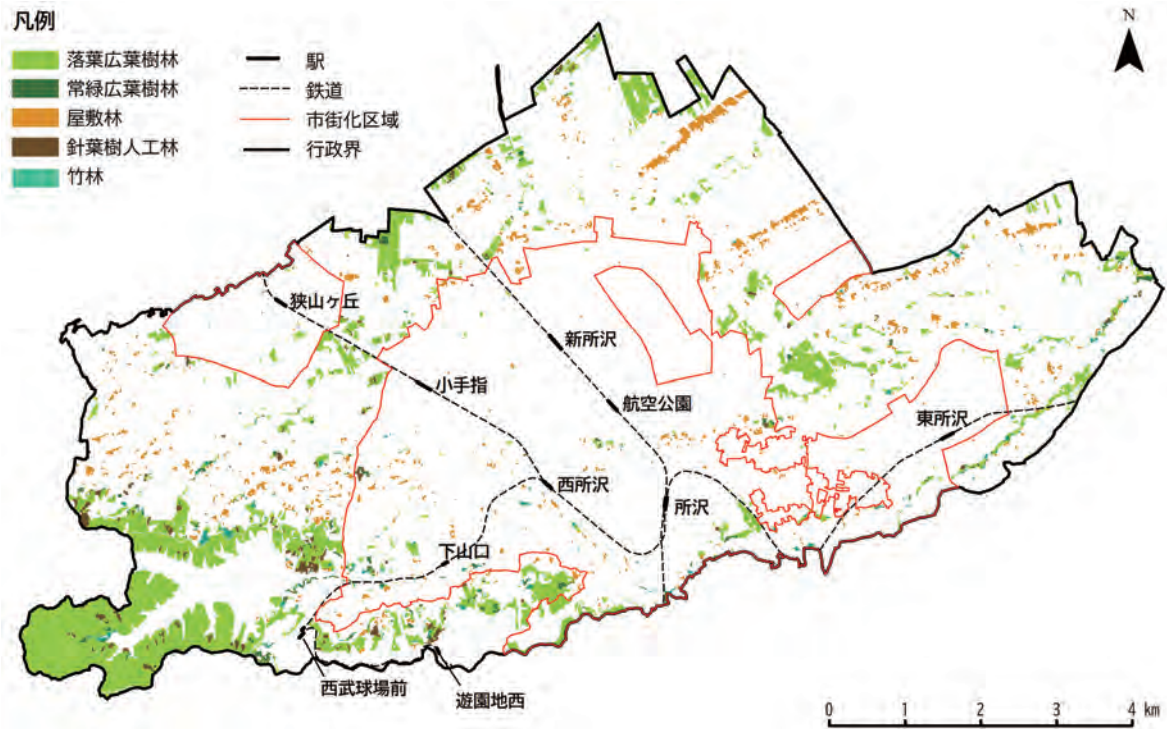


図 2-7 樹林の分布

ア. 落葉広葉樹林（雑木林*）

クヌギ、コナラ、ヤマザクラ、エゴノキなどの落葉広葉樹が主体の樹林で、農用林*・薪炭林*として一部の樹種が植栽され、定期的な伐採、下刈り、落ち葉はきなどが行われて維持されてきました。狭山丘陵や武蔵野台地などに広く分布し、武蔵野の雑木林として本市を代表する林です。農用林・薪炭林としての管理が行われなくなったことにより、明るい林内を好む動植物が減り、成熟した林を好む生きものが増えています。



イ. 常緑広葉樹林

シラカシやアカガシ、スダジイなどの常緑広葉樹を主体とする樹林です。長い年月をかけて成立した本市の植生遷移の最終段階の樹林です。分布は、滝の城址公園や柳瀬荘周辺、柳瀬川沿いの段丘崖*、所澤神明社をはじめとする社寺林*などに限られています。



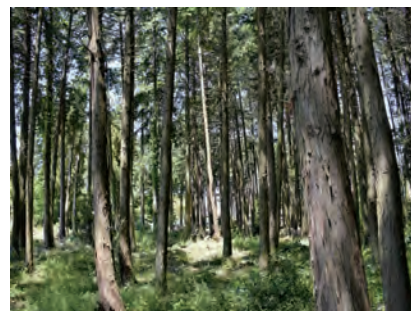
ウ．屋敷林

古くからある農家の裏手には、ケヤキやシラカシ、ムクノキなどを主体とした屋敷林が見られます。屋敷林は、冬に吹く北西季節風（からっ風）やその時に吹く砂塵を防ぐために一部の樹種を植栽して作られた林です。長い年月を経て大木やさまざまな種類の樹木が生育しています。



エ．針葉樹人工林

主に木材生産のために、スギ、ヒノキ、サワラなどを植林した林です。狭山丘陵周辺のほか、台地上にも落葉広葉樹林などに混じって分布しています。間伐などの管理が行われないために林内が暗くなり、生息・生育する生きものが少ない樹林が見られます。



オ．竹林

生活に必要な材料の確保や、タケノコの収穫などを目的として植栽された、モウソウチクを主体とする竹林が、農家の裏山などに分布しています。

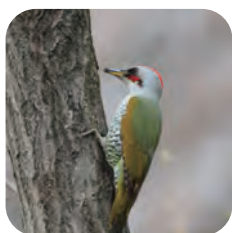
竹林だけに生息する昆虫などがいる一方、竹林に生息する生きものの種類や数は、落葉広葉樹林に比べると限定されます。竹は繁殖力が旺盛で、手入れがされずに周辺の落葉広葉樹林などに広がり、生物多様性に悪影響を与えている状況が見られます。



ホンドキツネ



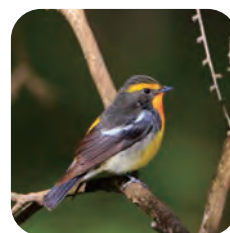
ホンドタヌキ



アオゲラ



ヤマガラ



キビタキ



シマヘビ



ミヤマセセリ



ノコギリクワガタ



シロスジカミキリ



クツワムシ

樹林に生息する代表的な生きもの

B. 樹木植栽地

公園や公益施設、道路、集合住宅地などの樹木を植栽した場所です。植栽樹種や植栽からの経過年数、管理方法などによって、生息する生きものの種類や数はさまざまです。「樹林」と比較すると樹木の種類が少なく、林の構造が単純（高木だけなど）な傾向がありますが、なかには市内の自然の樹林をモデルとして多様な樹木を植栽することによって、生きものが生息しやすい環境を創出している防衛医科大学校病院などの施設もあります。

多くは、市街化区域*に分布しており、特にまとまった樹木植栽地は、所沢航空記念公園や並木地区の公共施設などに見られます。



所沢航空記念公園



市役所



防衛医科大学校病院

C. 樹木畑

「樹木畑」には、果樹園、クリ園、植木畑などがあります。市内全域に点在し、特に三ヶ島地区や小手指地区に多く見られます。生産の場であるため生息する生きものの種類は限られますが、鳥類や昆虫類などの移動空間や生息空間になっています。また、クリ園は花の時期に多くの昆虫が吸蜜に訪れます。



ブドウ畑



クリ園



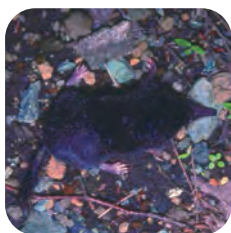
植木畑

D. 樹木の多い住宅地

「樹木の多い住宅地」の大部分は、古くからある農家であり主に庭木が生育しています。三ヶ島地区にまとまりを持って分布するほか、富岡地区、柳瀬地区などでは、新田開発によってつくられた農家の敷地が列状に分布しています。市街化区域では山口地区や小手指地区、松井地区西部の東川沿いなどに分布しています。



樹木の多い住宅地



ヒミズ



コゲラ



エナガ



シジュウカラ



メジロ



アオダイショウ



ゴマダラチョウ



ヤマトタマムシ



カブトムシ



コクワガタ

樹木植栽地・樹木畑・樹木の多い住宅地に生息する代表的な生きもの

② 草地環境

E. 乾いた草地

「乾いた草地」は、ススキやオギ、チガヤ、アズマネザサなどが生育する草地です。広大な面積の乾いた草地が米軍所沢通信基地に存在するほか、通常時は水が入らない調節池*などに分布しています。



米軍所沢通信基地



下富調整池



くぬぎ山地区



ホンドカヤネズミ



ホオジロ



モズ



シマヘビ



クツワムシ

乾いた草地に生息する代表的な生きもの

F. 人工草地

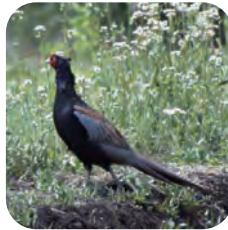
「人工草地」は公園や公共施設、ゴルフ場などにシバ類などを植栽、播種して育成、管理が行われている草地です。場所によっては、メヒシバ、シバスゲ、ネジバナ、オオチドメなどの野草が見られます。



所沢航空記念公園



アズマモグラ



キジ



ツグミ



ヒガシニホントカゲ



ジャノメチョウ

人工草地に生息する代表的な生きもの

G. 畑

「畑」は、あぜ道や休耕地*などに野草が生育し、昆虫などのすみかになっています。また、樹林と一体となった広い面積の畑には、ホンドキツネやキュウシュウノウサギが生息し、ヒバリが繁殖をしています。市街化調整区域*に広く分布し、市街化区域*内にも生産緑地地区*に指定された畑が点在しています。



三ヶ島地区の畑



並木地区の畑



柳瀬地区の畑



ホンドキツネ



キュウシュウノウサギ



ヒバリ



キアゲハ



エンマコオロギ

畑に生息する代表的な生きもの

H. 茶畑

「茶畑」の周辺には草地などの生きものが生息する場所は少ないですが、狭山丘陵の茶畑では、藪を好むホオジロなども見ることができます。三ヶ島地区や小手指地区に多く分布しています。



コラム

米軍所沢通信基地の自然

市のほぼ中央に位置する米軍所沢通信基地には広い草原があり、ヒバリ、セッカ、キジなどの草地の鳥をはじめとするさまざまな生きもののすみかになっています。

1980年代にはオオジシギやコヨシキリ、ホオアカといった県内では繁殖記録の少ない鳥類の繁殖が確認されています。特にオオジシギは、埼玉県では春・秋の渡りの時期に通過鳥として確認される種類で、1980年代にこの場所で継続的に繁殖したことは、県内で唯一の貴重な記録となっています。

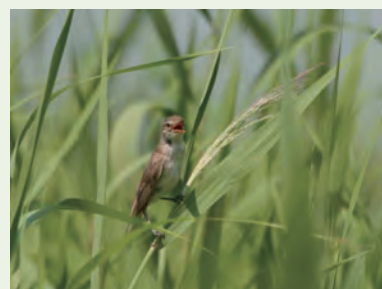
草原は刈り取りの管理が行われており、主にススキやチガヤ、シバなどの乾いた草地の植物が生育しています。注目したいのは、希少種であるカワラサイコをはじめ、テリハノイバラやヘラオオバコといった本来は河原で見られる植物が確認されている点です。これらの植物は、飛行場を造成した際に搬入した河原の砂利とともに持ってこられて定着したものと考えられています。

敷地に入って直接自然にふれることはできませんが、フェンスの外側から、鳥のさえずりを聞いたり、上空を飛ぶ様子を観察したりすることができます。草地は特に減少が著しい環境であり、広大な草原が残るこの場所は、生きものたちのサンクチュアリとして、貴重な存在となっています。

参考・引用：所沢市（1997・H9）「所沢の自然」



オオジシギ



コヨシキリ



カワラサイコ



米軍所沢通信基地の草原

③ 水辺環境

Ⅰ．湿地

「湿地」は、砂川堀源流部に市内最大の三ヶ島湿地があるほか、狭山丘陵の谷戸*に^{こうじや}糞谷八幡湿地、三ヶ島二丁目里山保全地域*の^{ぼだいぎ}湿地、菩提樹池里山保全地域の湿地などが分布します。



三ヶ島湿地



糞谷八幡湿地



菩提樹池里山保全地域の湿地



オオヨシキリ



トウキョウサンショウウオ



アカハライモリ



ヤマアカガエル



ヒメアカネ

湿地に生息する代表的な生きもの

Ⅱ．水田

「水田」は、かつては狭山丘陵の谷戸や、柳瀬川、東川、六ツ家川沿いの低地、八国山の北麓などに見られました。現在では、その大部分が消失し、「北野南二丁目里山保全地域」「上山口堀口天満天神社周辺里山保全地域」「菩提樹池里山保全地域」に小規模なものが分布するほか、糞谷八幡湿地に市民が管理する水田が見られます。



上山口堀口天満天神社周辺里山保全地域



三ヶ島湿地内の体験水田



菩提樹池里山保全地域



アオサギ



ヒバカリ



トウキョウダルマガエル



シュレーゲルアオガエル



ニホンアマガエル

水田に生息する代表的な生きもの

K. 湖・池

狭山丘陵には、1932 年（昭和 7 年）に通水式が行われた狭山湖（山口貯水池）があり、多くの水鳥が飛来します。

「池」は狭山丘陵の谷戸*に、堂入の池や菩提樹池、西武園ゴルフ場の池などの小規模なものが点在するほか、岩崎弁財天の池、永源寺の池、所沢航空記念公園の池、松が丘調整池などがありますが、その数は限られています。



狭山湖（山口貯水池）



堂入の池



菩提樹池



所沢航空記念公園の池



滝の城址公園の池



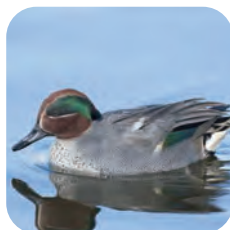
ホンドイタチ



カワセミ



カルガモ



コガモ



カンムリカイツブリ

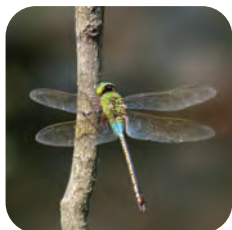
湖に生息する代表的な生きもの



ミナミメダカ



ハイケボタル



ギンヤンマ



ニホンアカガエル



カルガモ

池に生息する代表的な生きもの

L. 河川・水路

市内には、柳瀬川、東川、不老川の3河川及び砂川堀、六ツ家川、樽井戸川等の多くの水路があります。その多くが狭山丘陵を水源として、ほぼ西から東へと市内を流下しています。

ア. 柳瀬川

狭山湖（山口貯水池）の完成前は、勝楽寺と縄竹（入間市）を起点としていましたが、現在は、狭山湖堤防下の大鐘橋を起点としています。最上流部にはかつては国の天然記念物*のミヤコタナゴが生息していました。上・中流域には瀬や淵*、河畔林*があり、ヤリタナゴ、スナゴカマツカ、ナマズなどが、下流域にはアユやマルタなどの回遊魚*も確認されています。



上流部



中流部



下流部



ヤリタナゴ



スナゴカマツカ



ナマズ



アユ



マルタ

柳瀬川に生息する代表的な生きもの

イ. 東川

狭山丘陵に端を発し、市のほぼ中央を西から東に流れ、坂之下で柳瀬川に合流します。大部分が護岸*されていますが、川底には砂利などが豊富にあり、ドジョウやヒガシシマドジョウが生息するほか、低水敷に草などが生えている場所にはトンボ類やカモ類、またカワセミなども生息しています。



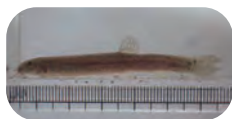
上流部



中流部



下流部



ドジョウ



ヒガシマドジョウ



スジエビ



カワセミ



ハグロトンボ

東川に生息する代表的な生きもの

ウ．砂川堀

狭山丘陵の堂入の池を水源として、富岡地区を通り、富士見市で新河岸川に合流します。^{せいしが}誓詞橋から下流は、都市下水路*として管理されています。上流部に土の岸辺が残されており、ミナミメダカやモツゴなどが確認されているほか、下流部の富岡地区などでは、カモ類などの水鳥も見られます。



上流部



中流部



下流部



ミナミメダカ



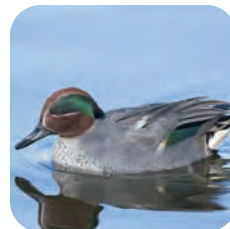
モツゴ



アオサギ



カルガモ



コガモ

砂川堀に生息する代表的な生きもの

(4) エコロジカルネットワーク

野生の生きものの多くは、生まれてから1か所にとどまっているのではなく、繁殖や採食などのために日、年、一生などの単位で、同じあるいは異なる環境を移動して暮らしています。そのため、多様な生きものが長くその地域で生息生育できるようにするためには、さまざまなタイプの「生物生息空間」があり、その間を生きものが移動できるようになっていることが望めます。

このように、生物生息空間を適切に配置し、生態的なつながりを持たせることをエコロジカルネットワークと呼びます。

本戦略ではエコロジカルネットワークの構成要素を次のように設定します。

表 2-5 エコロジカルネットワークの構成要素

核	高次消費者（生きものの食う・食われるの関係の上位の生きもの）をはじめとする、多くの動植物の安定的な生息地。拠点への動植物の供給源になる。
拠 点	動植物の安定的な生息地
回 廊	核や拠点をつなぎ、動植物の移動経路となる生物生息空間。帯状のものと飛び石状のものがある。

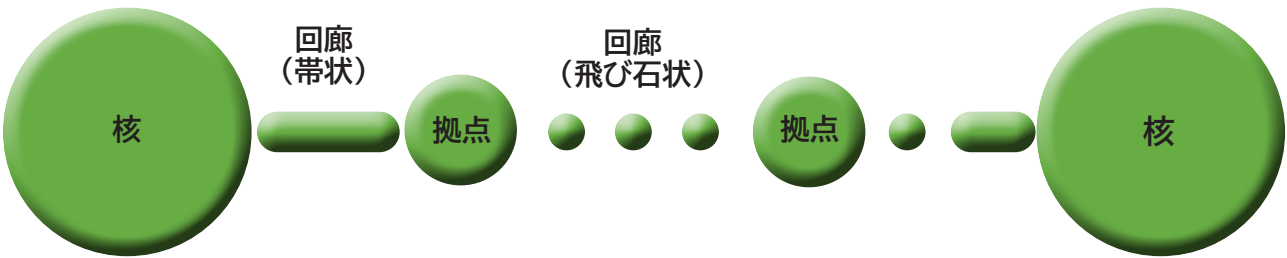


図 2-8 エコロジカルネットワークの概念

例えば、コゲラは樹林、ヒバリは草地、カワセミは水辺を生息場所としているように、生きものは種類によって、利用する環境が異なります（種類によっては、樹林と水辺などの複数の環境を利用している生きものもいます）。そのため、エコロジカルネットワークについても、環境ごとに検討することが望めます。

そこで、エコロジカルネットワークの状況について、本市の代表的な環境である「樹林」「草地」「水辺」に分けて検討し、その結果を重ねあわせて、エコロジカルネットワークの「重要エリア」を設定しました。

※「樹林」「草地」「水辺」のエコロジカルネットワークのイメージについては、資料編「2. エコロジカルネットワークのイメージ」（147 ページ）を参照してください。

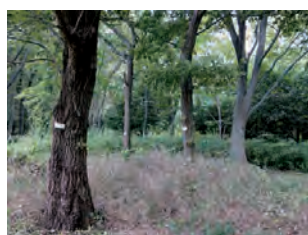
1) 樹林のエコロジカルネットワーク

① 対象とした生物生息空間

以下の生物生息空間を対象として検討を行いました。



樹林



樹木植栽地



樹木畑



樹木の多い住宅地

② 樹林のエコロジカルネットワークの現状

これまでに調査などによって明らかになっている生きものの移動距離や、良好な樹林環境を指標する生きものの生息状況をふまえ、「核」「拠点（樹林）」「拠点（樹木植栽地）」「回廊（樹林）」「回廊（樹木植栽地等）」を設定しました。

表 2-6 樹林のエコロジカルネットワークの現状

位置づけ	現 状
核	・「核」となる樹林は、狭山丘陵、東狭山ヶ丘周辺、旧鎌倉街道周辺、くぬぎ山周辺、三富新田周辺、柳瀬川段丘崖*周辺、若狭周辺、北秋津周辺、東川下流、北原町周辺、所沢カルチャーパーク周辺に分布しています。 ・これらすべての場所で、高次消費者*であるオオタカの営巣*やツミの生息のほか、特に自然度の高い樹林に生息するキビタキ、アオゲラが確認されています。また、狭山丘陵ではオオムラサキが確認されています。
拠点 (樹林)	・市街化調整区域*では「核」の周辺などに点在し、市街化区域*においては、所澤神明社周辺や、若狭地蔵市民の森*、若狭山の神市民の森、椿峰ニュータウン周辺、牛沼市民の森周辺、柳瀬川段丘崖周辺などが該当します。 ・「拠点（樹林）」では、比較的規模の大きな樹林において、高次消費者であるツミや、特に自然度の高い樹林環境を指標するアオゲラが確認されています。
拠点 (樹木植栽地)	・並木・中新井周辺、新所沢駅西側周辺、小手指駅周辺、椿峰ニュータウン周辺、エステシティ周辺などに分布しています。 ・「拠点（樹木植栽地）」では、所沢航空記念公園や緑町中央公園、椿峰ニュータウンで、自然度の高い樹林を指標するコゲラが確認されています。
回廊	・市街化区域の「回廊（樹林）」は、東川沿いや柳瀬川の段丘崖沿いなどに連続しています。これらは移動距離の短い生きもの（コクワガタ）を対象とした場合には、ネットワークが部分的に分断していますが、移動距離の長い生きもの（鳥類）を対象とした場合、ネットワークが確保されていると考えられます。 ・「回廊（樹林）」と「回廊（樹木植栽地）」をあわせたネットワークは、移動距離が短い生きものを対象とした場合でも概ね確保されています。

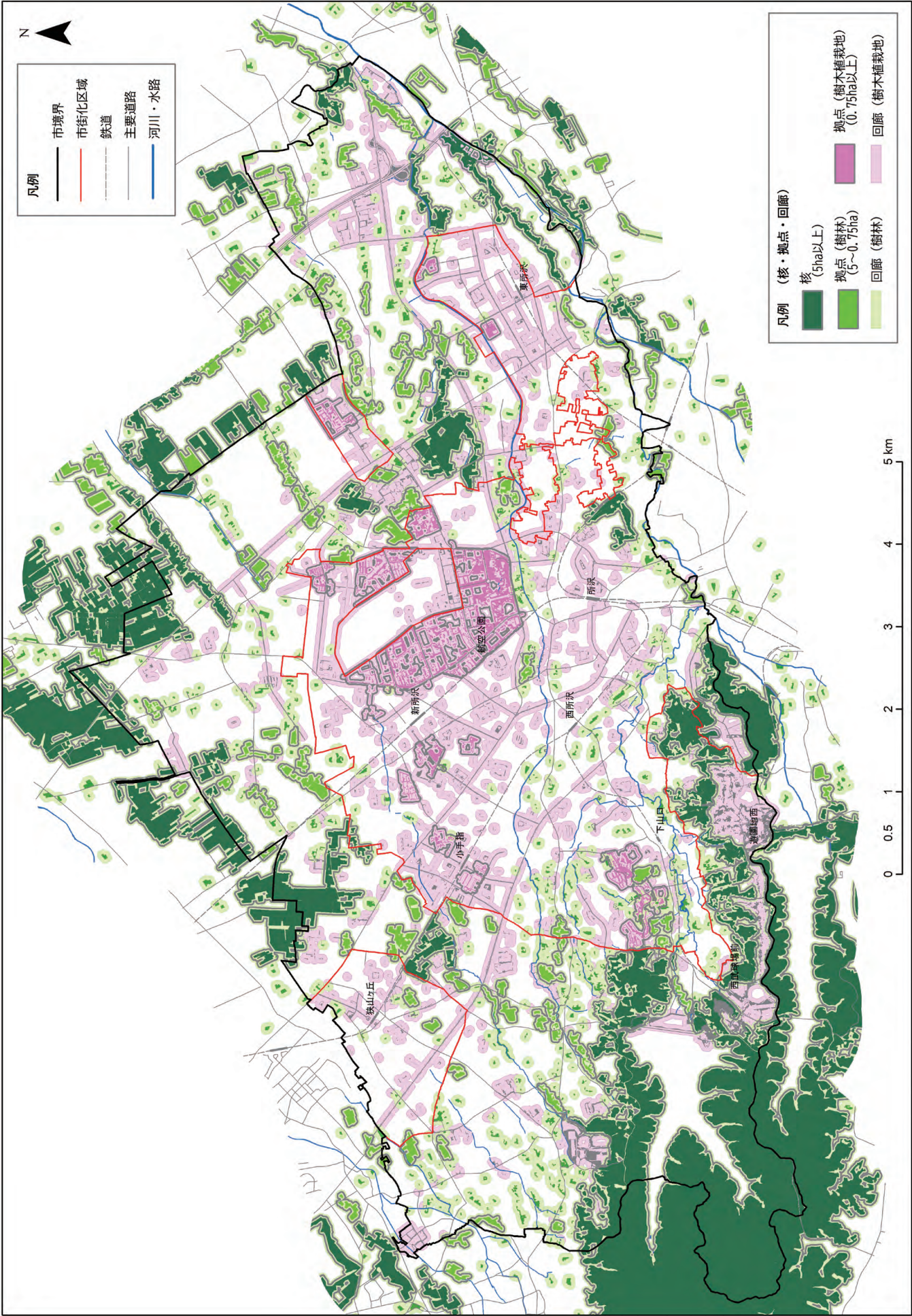


図 2-9 樹林のエコロジカルネットワーク現況

2) 草地のエコロジカルネットワーク

① 対象とした生物生息空間

以下の生物生息空間を対象として検討を行いました。



乾いた草地



湿地



人工草地



畑

② 草地のエコロジカルネットワークの現状

これまでに調査などによって明らかになっている生きものの移動分散距離や、良好な草地環境を指標する生きものの生息状況をふまえ、「核」「拠点（自然草地）」「拠点（人工草地）」「回廊」を設定しました。

表 2-7 草地のエコロジカルネットワークの現状

位置づけ	現 状
核	・ ホンドキツネやキュウシュウノウサギの生息が確認された自然草地や人工草地、農地を対象としています。早稲田大学所沢キャンパス敷地内や狭山湖堤防、西武園ゴルフ場、規模の大きい樹林と一体となった場所に分布しています。
拠点 (自然草地)	・ 米軍所沢通信基地のほか、砂川堀北野調整池、下富調整池、柳瀬川下流部などに分布しています。
拠点 (人工草地)	・ 早稲田大学所沢キャンパス敷地内や所沢航空記念公園や並木地区の公共公益施設*、日本大学敷地内などに分布しています。
回廊	・ 比較的移動距離が短い生きもの（バッタ類）を対象とした場合、市街化区域*では、点在する農地を回廊としてネットワークが形成されていますが、住宅密集地などネットワークが弱い場所も広い範囲に見られます。 ・ 市街化調整区域*では、畑に点在する草地や遊休農地*などを回廊として、広くネットワークされていると考えられます。

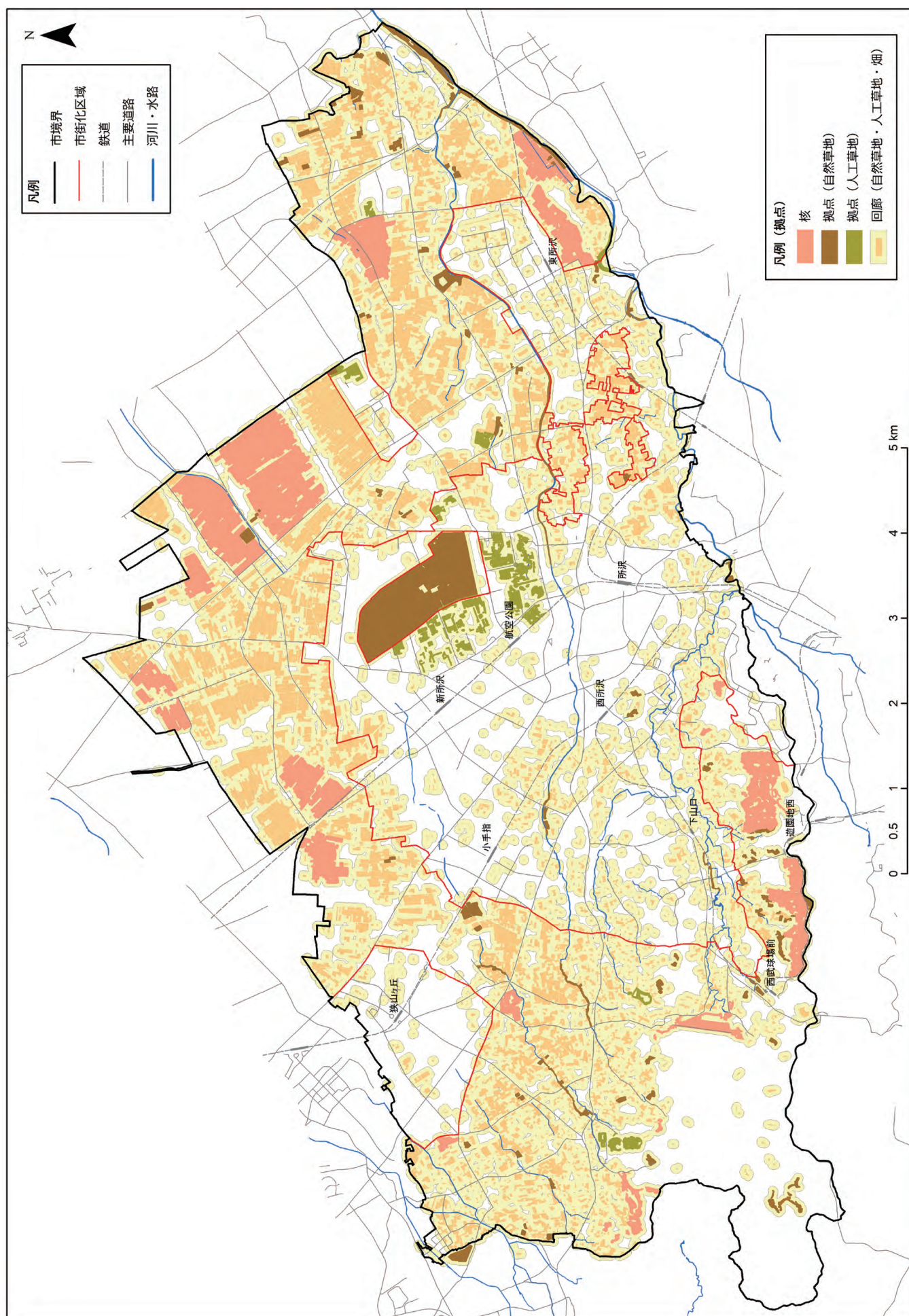


図 2-10 草地のエコロジカルネットワーク現況

3) 水辺のエコロジカルネットワーク

① 対象とした生物生息空間

以下の生物生息空間を対象として検討を行いました。



池・湖



河川・水路



湿地



水田

② 水辺のエコロジカルネットワークの現状

これまでに調査などによって明らかになっている生きものの移動分散距離や、良好な水辺環境を指標する生きものの生息状況をふまえ、「核」「拠点」「回廊（核・拠点間）」「回廊（河川・水路）」を設定しました。

表 2-8 水辺のエコロジカルネットワークの現状

位置づけ	現 状
核	・ 規模の大きい狭山湖（山口貯水池）と、多くの良好な水辺環境を指標する生きものが生息している、早稲田大学所沢キャンパス内の湿地（三ヶ島湿地）や葛籠入湿地があります。
拠点	・ 堂入の池、菩提樹池^{ぼだいぎ}、「北野南二丁目里山保全地域^{こうじや}*」の池と水田、「菩提樹池里山保全地域」の湿地、水田、糍谷八幡湿地と水田などがあります。 ・ また、市に隣接する拠点としては、大森調節池や清瀬金山調節池、北山公園の池などが分布しています。
回廊 （核・拠点間）	・ 比較的移動距離の短い生きもの（止水性イトトンボ類）を想定した場合、狭山丘陵の水辺（止水）はネットワークされています。また、比較的移動距離の長い生きもの（シオカラトンボ）を想定すると、既存の市内の水辺（止水）はほとんどがネットワークされている状況にあります。
回廊 （河川・水路）	・ 不老川、砂川堀の上流部、東川の上流部・下流部、柳瀬川では、「自然（土の岸辺）」「半自然（草の生育等）」が分布しています。これらの場所では、河川沿いが流水性のトンボ類（ハグロトンボなど）が生息・移動する回廊になっていると考えられます。 ・ 柳瀬川では、上下流を移動するアユやウキゴリの生息が確認されていることから、魚類の行き来を制限する段差が少なく、上下流の連続性が一定程度確保され、魚類や水生生物の回廊になっていると考えられます。一方、東川にはこれらの種は確認されておらず、最下流部の段差などによって、魚類などの行き来が妨げられていると考えられます。

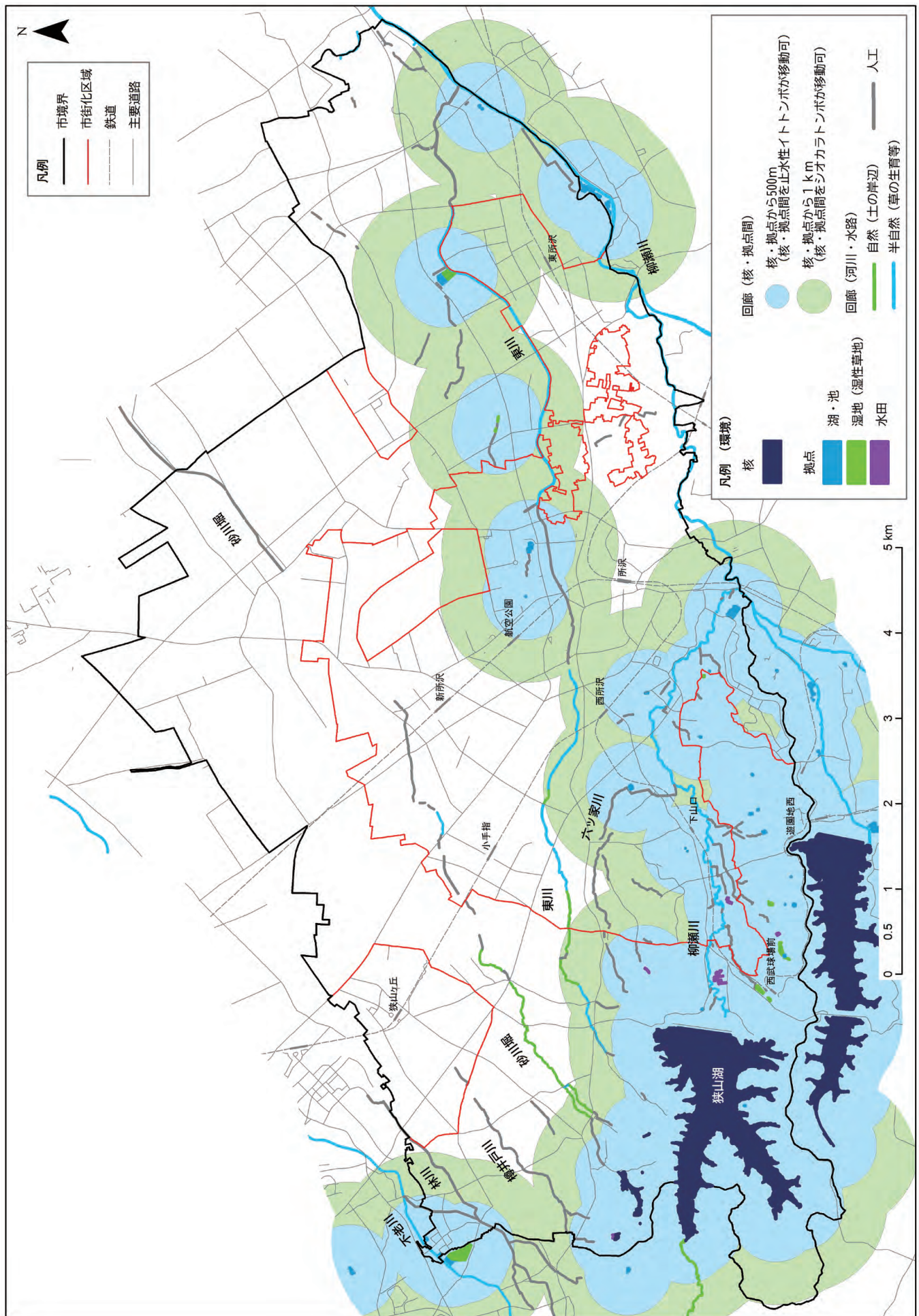


図 2-11 水辺のエコロジカルネットワーク現況

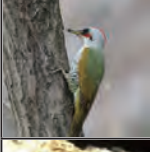
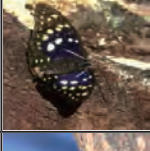
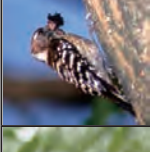
4) エコロジカルネットワークの重要エリア

「樹林」「草地」「水辺」の「核」「拠点」「回廊」を重ねあわせ、その一体性や連続性を考慮して、エコロジカルネットワークの「重要エリア」を設定しました。また、面積が大きな重要エリアについては、重要エリアを細区分した「区分地区」を設定しました。

「重要エリア・区分地区」の位置を図 2-12 に、エコロジカルネットワークの状況を表 2-12 に整理しました。表 2-12 には、表 2-9、2-10、2-11 に示す良好な環境を示す生きものの確認記録を記載しています。

「図 2-12 重要エリア・区分地区の位置」及び「表 2-12 重要エリア・区分地区のエコロジカルネットワークの状況」は、「施策 1-1-1.「緑地保全制度」による保全指定の推進」及び「1-1-2. 生物生息空間の公有地化の推進」における「対象地におけるエコロジカルネットワークの位置づけを確認するための資料」に該当します。

表 2-9 良好な樹林環境を示す生きもの

選定理由	種名・生態など	
高次消費者*		オオタカ 平地から山地の林で繁殖するカラス大のタカ類。主にスズメなどの小型鳥類やカモ、ハトなどの中型鳥類を捕食する。樹林や里山*における「食う・食われる」の関係の頂点に位置する生きものの一つ。
		ツミ ハトよりも小さい日本最小のタカ類。小型鳥類や小動物、昆虫類を食べる。平地から山地の林や、都市近郊の緑地に生息し、アカマツに好んで営巣*する。樹林や里山における「食う・食われる」の関係の頂点に位置する生きものの一つ。
特に自然度の高い樹林※の指標種*		キビタキ 夏になると、平地や山地の林へやってくる渡り鳥。高木の下に空間が広がる、比較的明るい林を好み、樹洞*やキツツキの古巣など、さまざまな場所で繁殖する。雑食性で、昆虫類や木の実などを食べる。
		アオゲラ 日本固有種*のキツツキ。平地から山地の、比較的茂った林に生息する。樹上や地上で、昆虫類や木の実、果実を食べる。特にアリ類を好み、主食としている。巣穴は生木につくることが多く、とがったくちばしで木をたたいて穴を掘る。
		オオムラサキ 紫の羽を持つ大型のチョウで、日本の国蝶。丘陵地や山地の森林、川の近くの林などに生息する。成虫は樹液や腐った果実の汁などを吸うほか、地面で吸水する。卵はエノキやエゾエノキの小枝、葉裏に固めて産み付け、幼虫はその葉を食べて生活する。
自然度の高い樹林※の指標種		コゲラ スズメほどの大きさの、日本で一番小さいキツツキ。山地から平地の林、市街地の林などに生息する。主に樹上で昆虫類を食べるほか、木の実や、サクラなどの花の蜜を採食する。枯れ木に穴を開けて巣穴をつくる。
		ゴマダラチョウ 黒い羽に白い斑点が特徴的な中型のチョウ。平地から低山地の雑木林*に多く生息する。成虫は樹液や腐った果実の汁などを吸うほか、地面で吸水する。エノキやエゾエノキなどの小枝や葉裏に産卵し、幼虫はその葉を食べて生活する。

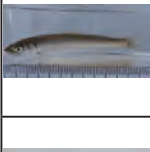
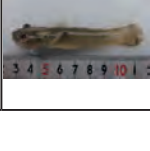
※自然度の高い樹林：人による影響が少ない、環境が多様などの条件を持っている樹林

表 2-10 良好な草地環境を示す生きもの

選定理由	種名・生態など	
高次消費者*		ホンドキツネ 山林、草地、農耕地など幅広い環境を利用する。雑食性で、小型哺乳類や鳥類、昆虫などを食べる。ナワバリを示すために、林や道の上の目立つところに糞をする。斜面などに穴を掘って巣穴を作り、繁殖期にのみ使う。里山*や草地の「食う・食われる」の関係の頂点に位置する生きものの一つ。
自然度の高い草地の指標種*		キュウシュウノウサギ 森林や草地などに生息する。夜間に活動し、昼間はやぶや岩陰で休んでいることが多い。特定の巣はもたない。木の芽や葉っぱ、草などを食べる草食性で、餌が少なくなる冬には、木の枝や皮も食べる。天敵はホンドキツネや大型の猛禽類*など。
		ジャノメチョウ 茶色い羽に、目玉模様のある中型のチョウ。明るい草原を好み、農地や雑木林*周辺の草地、採草地などに生息する。成虫は花の蜜や樹液を吸蜜する。幼虫はススキやスゲ類などを食べる。地面や草の間に卵を産み落とす、放卵を行う。

※自然度の高い草地：人による影響が少ない、環境が多様などの条件を持っている草地

表 2-11 良好な水辺環境を示す生きもの

選定理由	種名・生態など	
高次消費者		ホンドイタチ 平野部の川や湖沼などの水辺を好んで生息する。指の間に水かきがあり、泳ぎも得意。雑食性で、主にネズミや鳥類、ザリガニ、魚類などの動物を餌とする。土穴など巣穴とし、複数箇所を利用しながら暮らす。水辺環境における「食う・食われる」の関係の頂点に位置する生きものの一つ。
良好な水辺の指標種		カワセミ 青い羽が美しい水辺の小鳥。河川や湖沼のほか、市街地の川、公園の池などにも生息する。水辺の枝や、水上での滞空飛行で獲物を待ちぶせ、見つけると水中に飛び込んで、小魚や水生昆虫を捕食する。水辺の垂直な土の壁に横穴を掘って、巣をつくる。
		ミナミメダカ 平地の河川や水田、用水路などに生息し、藻類やミジンコなどの動物性プランクトン、ボウフラなどを餌とする。水際の水生植物に産卵するため、湿地帯の消失や、河川のコンクリート護岸*化などによって生息域が減少している。
		アカガエル類 平地から丘陵地、山地の水田や湿地等に見られ、浅い止水で繁殖を行う。ニホンアカガエル・ヤマアカガエルなど、種類によっては非繁殖期に落葉広葉樹林*も利用するため、水辺と樹林が連続した環境が必要となる。
		ホタル類 河川や水田の用水路などに生息し、ゲンジボタルは水の流れのある環境、ハイケボタルは止水環境を好む。成虫は夜間に発光しながら水辺を飛び回る。幼虫は水の中に生息し、カワナやタニシなどの水棲巻貝類を餌とする。
河川の上流の連続性の指標種		トウキョウサンショウウオ 2～3月の春先に、湧水の出ている谷戸*の水田や水たまりに、バナナ状の卵のう*を産卵する。幼生の間は水辺で過ごし、上陸後は丘陵地の雑木林の落ち葉のたまった場所などに生息する。昆虫やミミズなどを餌とする。
		アユ 川と海を行き来する回遊魚*。スイカのようなにおいがするため「香魚」とも呼ばれる。稚魚は海に下り、プランクトンや小さなエビ類を食べて育ったあと、秋の産卵時期に生まれた川に戻ってくる。河川では川底の石についた藻類などを餌としている。
		ウキゴリ 川と海を行き来する回遊魚で、ハゼのなかま。川の汽水域から中流域までの流れのゆるやかな場所や、川の本流とつながるよどみなどに生息する。5月～6月の産卵後、稚魚は河口付近まで下り、再び川に戻ってくる。

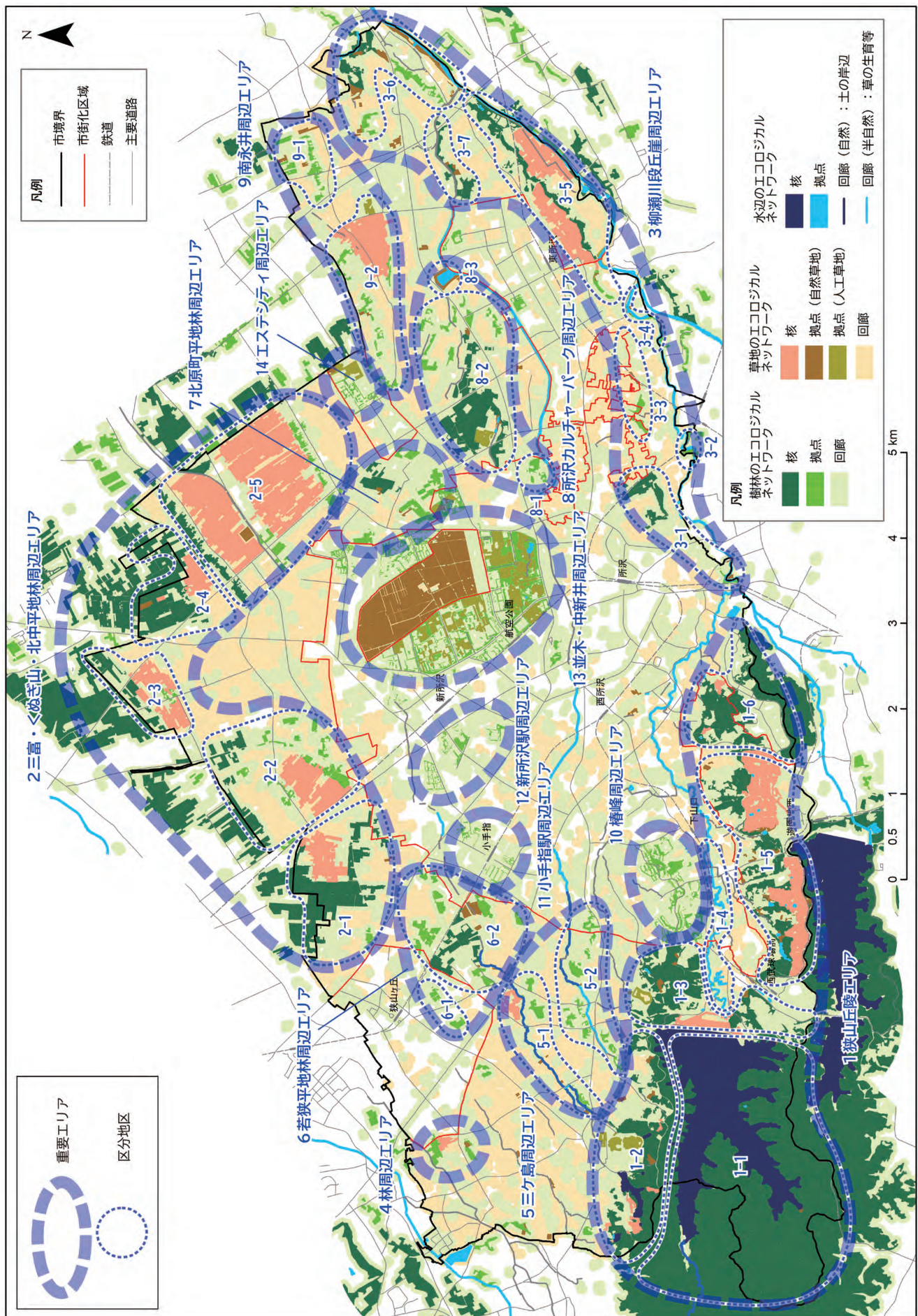


図 2-12 重要エリア・区分地区の位置

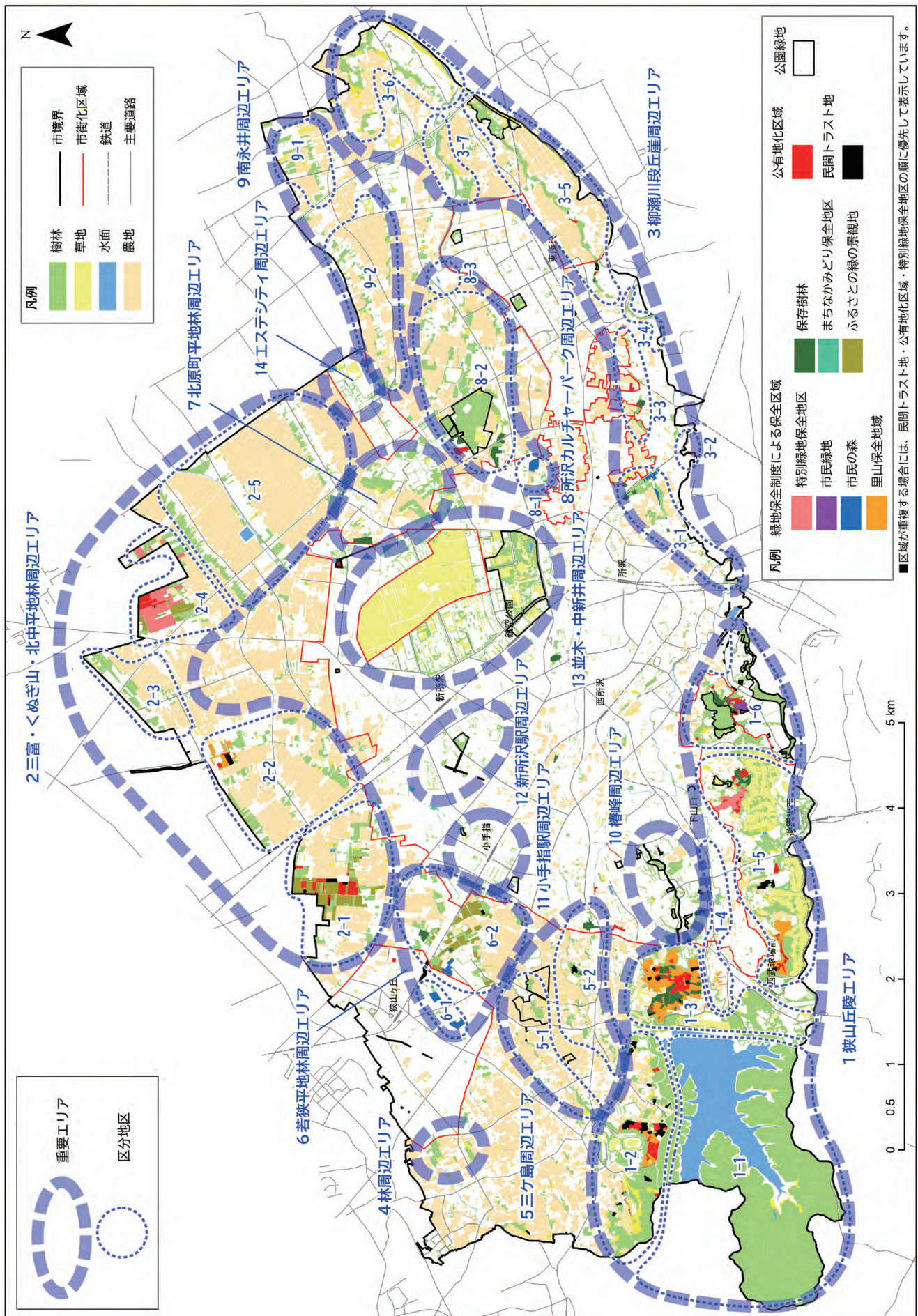


図 2-13 重要エリア・区分地区内の保全状況

表中の表記方法

○エコロジカルネットワークの位置づけについては、以下の方法で表記しています。

「樹林のエコロジカルネットワーク」の「核」「拠点」「回廊」 → 「樹林・核」「樹林・拠点」「樹林・回廊」
 「草地のエコロジカルネットワーク」の「核」「拠点」「回廊」 → 「草地・核」「草地・拠点」「草地・回廊」
 「水辺のエコロジカルネットワーク」の「核」「拠点」「回廊」 → 「水辺・核」「水辺・拠点」「水辺・回廊」

○「■良好な環境を指標する生きものの確認状況」の欄は、確認された生きもの名を水色に網掛けしています。
 例) オオタカ

表 2-12 重要エリア・区分地区のエコロジカルネットワークの状況

1 狭山丘陵エリア	1-1 奥部勝楽寺地区 〔樹林・核〕である狭山湖周辺の樹林と、〔水辺・核〕である狭山湖などから構成される地区です。東京都の水源として人の立ち入りが制限され保全されていることもあり、良好な環境を指標する生きものが多く確認されています。特に、他の地区では確認記録が少ないホタル類やトウキョウサンショウウオが狭山湖の谷部で多く確認されています。 アライグマによるトウキョウサンショウウオの捕食などが想定されることから、定期的な動植物調査と対策を実施し、エコロジカルネットワークの「核」として生物多様性を保全することが望まれます。 ■良好な環境を指標する生きものの確認状況 【樹林】 オオタカ ツミ キビタキ アオゲラ オオムラサキ コゲラ ゴマダラチョウ 【草地】 ホンドキツネ キュウシュウノウサギ ジャノメチョウ 【水辺】 ホンドイタチ カワセミ ミナミメダカ アカガエル類 ホタル類 トウキョウサンショウウオ アユ ウキゴリ	
	1-2 三ヶ島地区 狭山丘陵の北部に位置し、砂川堀や東川の源流に位置します。〔樹林・核〕である狭山丘陵の樹林のほか、〔草地・核〕である広い草地や、〔水辺・核〕である三ヶ島湿地、〔水辺・拠点〕である大小の湿地や池により構成される地区です。樹林、草地、水辺ともに、良好な環境を指標するすべての生きものが確認されており、特に、オオムラサキやホタル類、トウキョウサンショウウオの数少ない生息場所になっています。 早稲田大学の敷地内の保全活動によって守られているほか、里山保全地域*の指定や公有地化*、トラスト活動*により保全が図られています。 ■良好な環境を指標する生きものの確認状況 【樹林】 オオタカ ツミ キビタキ アオゲラ オオムラサキ コゲラ ゴマダラチョウ 【草地】 ホンドキツネ キュウシュウノウサギ ジャノメチョウ 【水辺】 ホンドイタチ カワセミ ミナミメダカ アカガエル類 ホタル類 トウキョウサンショウウオ アユ ウキゴリ	
	1-3 山口地区 狭山湖の堤防及び狭山丘陵の堤防から東側の地区です。〔樹林・核〕である柳瀬川左岸（北側）の樹林地や柳瀬川最上流部の樹林地、〔草地・核〕である狭山湖の堤防上の草地、丘陵の谷戸*に分布する〔水辺・拠点〕である池や湿地などの多様な環境から構成される地区です。こうした環境を反映し、樹林・草地・水辺ともに、良好な環境を指標する生きものが確認されています。 柳瀬川左岸については、里山保全地域、保存樹林*、公有地化、民間トラスト地*等によりほぼ全域が保全されています。狭山湖堤防の草地は、草刈回数の変更などにより一部を自然草地にするなど、生物生息空間としての質の向上などが望まれます。 ■良好な環境を指標する生きものの確認状況 【樹林】 オオタカ ツミ キビタキ アオゲラ オオムラサキ コゲラ ゴマダラチョウ 【草地】 ホンドキツネ キュウシュウノウサギ ジャノメチョウ 【水辺】 ホンドイタチ カワセミ ミナミメダカ アカガエル類 ホタル類 トウキョウサンショウウオ アユ ウキゴリ	

表 2-12 重要エリア・区分地区のエコロジカルネットワークの状況

1 狭山丘陵エリア	1-4 柳瀬川上流地区 国の天然記念物*のミヤコタナゴの生息がかつて確認されている狭山湖堤防下を起点とする柳瀬川の上流部です。[水辺・回廊]である土や草の生育する岸边のある河川や、[水辺・拠点]である河川沿いの水田、[樹林・拠点]である河畔林*などから構成されている地区です。ミナミメダカやヤリタナゴなどの希少魚類が確認されています。 水田の一部が里山保全地域*に指定されています。ミヤコタナゴの野生復帰とあわせて、土の岸边や河畔林の保全・再生・創出を図り、河川上流域の環境を保全することが望まれます。	
	■良好な環境を指標する生きものの確認状況 【樹林】 オオタカ ツミ キビタキ アオゲラ オオムラサキ コゲラ ゴマダラチョウ 【草地】 ホンドキツネ キュウシュウノウサギ ジャノメチョウ 【水辺】 ホンドイタチ カワセミ ミナミメダカ アカガエル類 ホタル類 トウキョウサンショウウオ アユ ウキゴリ	
	^{ほだいぎ} 1-5 菩提樹池・荒幡地区 柳瀬川右岸（南側）に尾根状に伸びる狭山丘陵の一部です。菩提樹池周辺をはじめ、複数の谷戸*環境が分布しています。[樹林・核]である地区の北側に連なる規模の大きな樹林や、ホンドキツネやキュウシュウノウサギが確認され[草地・核]として位置づけられるゴルフ場の草地、[水辺・拠点]である谷戸の小規模な池や湿地などから構成されています。樹林・草地・水辺ともに、良好な環境を指標する生きものが確認されています。 菩提樹池の周辺は公有地化*と民間トラスト地*、里山保全地域の指定により保全されています。また、荒幡富士の周辺は、公有地化のほか特別緑地保全地区*、保存樹林*の指定によって保全され、この2つの場所のほぼ中間の樹林が、公有地化*や、民間トラスト地*により保全されています。	
	■良好な環境を指標する生きものの確認状況 【樹林】 オオタカ ツミ キビタキ アオゲラ オオムラサキ コゲラ ゴマダラチョウ 【草地】 ホンドキツネ キュウシュウノウサギ ジャノメチョウ 【水辺】 ホンドイタチ カワセミ ミナミメダカ アカガエル類 ホタル類 トウキョウサンショウウオ アユ ウキゴリ	
	1-6 松が丘・久米地区 柳瀬川右岸（南側）に尾根状に伸びる狭山丘陵の先端に位置し、「3 柳瀬川段丘崖周辺エリア」とのつながりにおいて重要な地区です。[樹林・核]に位置づけられる規模の大きな樹林のほか、[草地・核]となる広い草地や、[水辺・拠点]となる小さな池なども分布しています。こうした多様な環境を反映し、樹林・草地・水辺ともに、良好な環境を指標する生きものが確認されています。 地区の北側の樹林は、鳩峯公園や民間トラスト地、市民緑地*、保存樹林等の指定等により保全されています。地区の南側の樹林は、都市緑地*（八国山緑地）などとして保全されています。	
	■良好な環境を指標する生きものの確認状況 【樹林】 オオタカ ツミ キビタキ アオゲラ オオムラサキ コゲラ ゴマダラチョウ 【草地】 ホンドキツネ キュウシュウノウサギ ジャノメチョウ 【水辺】 ホンドイタチ カワセミ ミナミメダカ アカガエル類 ホタル類 トウキョウサンショウウオ アユ ウキゴリ	

表 2-12 重要エリア・区分地区のエコロジカルネットワークの状況

2 三富・くぬぎ山・北中平地林周辺エリア	2-1 東狭山ヶ丘周辺地区 〔樹林・核〕である規模の大きな北中の平地林*と、〔草地・核〕である平地林に囲まれた農地から構成されています。樹林、草地の良好な環境を指標する生きものが確認されており、特に、オオタカ、ツミ、ホンドキツネといった高次消費者*が確認されていることはエコロジカルネットワークの核としての自然の質の高さを示しています。 北中の平地林は、一部を除きふるさとの緑の景観地*に指定されているほか、公有地化*や民間トラスト地*として保全されています。また、農地は農業振興地域*の農用地区域*として保全されています。	
	■良好な環境を指標する生きものの確認状況 【樹林】 オオタカ ツミ キビタキ アオゲラ オオムラサキ コゲラ ゴマダラチョウ 【草地】 ホンドキツネ キュウシュウノウサギ ジャノメチョウ 【水辺】 ホンドイタチ カワセミ ミナミメダカ アカガエル類 ホタル類 トウキョウサンショウウオ アユ ウキゴリ	
	2-2 旧鎌倉街道周辺地区 狭山市域にまたがる〔樹林・核〕である平地林と、〔樹林・拠点〕である点在する樹林、これらの樹林に囲まれた〔草地・核〕となる農地で構成されています。〔樹林・核〕の狭山市域では、最高次消費者であるオオタカの生息が確認されています。〔樹林・拠点〕は、〔樹林・核〕からまちなかへと生きものを導く機能を持っています。また、創出された小さな池ではアカガエル類の生息が確認されています。 地区北西部の樹林が里山保全地域*や民間トラスト地、公有地化により保全されています。また、〔草地・核〕となる農地は、農業振興地域の農用地区域として保全されています。	
	■良好な環境を指標する生きものの確認状況 【樹林】 オオタカ ツミ キビタキ アオゲラ オオムラサキ コゲラ ゴマダラチョウ 【草地】 ホンドキツネ キュウシュウノウサギ ジャノメチョウ 【水辺】 ホンドイタチ カワセミ ミナミメダカ アカガエル類 ホタル類 トウキョウサンショウウオ アユ ウキゴリ	
	2-3 下富北部地区 狭山市にまたがる〔樹林・核〕である平地林や、〔草地・核〕である農地で構成されています。〔樹林・核〕の狭山市域では、最高次消費者であるオオタカの生息が確認されています。樹林に隣接する農地では、ホンドキツネやキュウシュウノウサギの生息も確認されており、樹林と農地が一体となって良好な自然環境が形成されています。 〔草地・核〕である農地は、農業振興地域の農用地区域として保全されています。	
	■良好な環境を指標する生きものの確認状況 【樹林】 オオタカ ツミ キビタキ アオゲラ オオムラサキ コゲラ ゴマダラチョウ 【草地】 ホンドキツネ キュウシュウノウサギ ジャノメチョウ 【水辺】 ホンドイタチ カワセミ ミナミメダカ アカガエル類 ホタル類 トウキョウサンショウウオ アユ ウキゴリ	

表 2-12 重要エリア・区分地区のエコロジカルネットワークの状況

2 三富・くぬぎ山・北中平地形周辺エリア	2-4 くぬぎ山周辺地区 〔樹林・核〕である一団の平地林*のほか、〔草地・核〕である農地や〔草地・拠点〕となる自然草地で構成されています。自然草地は市内で減少が著しい環境であり、キュウシュウノウサギやジャノメチョウなどの生息が確認されています。 地区東側の樹林と自然草地は、特別緑地保全地区*やふるさとの緑の景観地*への指定、公有地化*によって保全されています。くぬぎ山地区自然再生事業を通じた生きものに配慮した樹林や草地の管理の実施が望まれます。  ■良好な環境を指標する生きものの確認状況 【樹林】 オオタカ ツミ キビタキ アオゲラ オオムラサキ コゲラ ゴマダラチョウ 【草地】 ホンドキツネ キュウシュウノウサギ ジャノメチョウ 【水辺】 ホンドイタチ カワセミ ミナミメダカ アカガエル類 ホタル類 トウキョウサンショウウオ アユ ウキゴリ
	2-5 三富新田地区 近年、開発による樹林地の消失が見られますが、区域北側の屋敷林*は比較的良好に残されており、北側のくぬぎ山地区と一体となった〔樹林・核〕に位置づけられます。農地ではキュウシュウノウサギが確認されているほか、下富調整池には広い草地環境があり、〔草地・核〕〔草地・拠点〕になっています。 農地は農業振興地域*の農用地区域*として保全されています。下富調整池は、草刈りの際に一部を刈り残し多様な環境をつくるなど、生きものに配慮した管理を行い、生物多様性を高めていくことが望まれます。  ■良好な環境を指標する生きものの確認状況 【樹林】 オオタカ ツミ キビタキ アオゲラ オオムラサキ コゲラ ゴマダラチョウ 【草地】 ホンドキツネ キュウシュウノウサギ ジャノメチョウ 【水辺】 ホンドイタチ カワセミ ミナミメダカ アカガエル類 ホタル類 トウキョウサンショウウオ アユ ウキゴリ
3 柳瀬川段丘崖周辺エリア	3-1 北秋津周辺地区 〔樹林・拠点〕である西武新宿線と柳瀬川交差部の樹林地から、〔樹林・核〕である北秋津・上安松地区内までの樹林です。柳瀬川段丘崖*上に小規模な樹林が点在し、〔樹林・回廊〕を形成しています。狭山丘陵と柳瀬川段丘崖上の樹林をつなぐ場所に位置しており、本市の広域的なエコロジカルネットワークにおいて重要性が高い地区の一つです。 小規模な樹林が保存樹林*として保全されているほか、斜面林*と一部の樹林が、市民の森*として保全されています。  ■良好な環境を指標する生きものの確認状況 【樹林】 オオタカ ツミ キビタキ アオゲラ オオムラサキ コゲラ ゴマダラチョウ 【草地】 ホンドキツネ キュウシュウノウサギ ジャノメチョウ 【水辺】 ホンドイタチ カワセミ ミナミメダカ アカガエル類 ホタル類 トウキョウサンショウウオ アユ ウキゴリ
	3-2 淵の森地区 「淵の森」は、公有地化された柳瀬川沿いの樹林で、所沢市と東村山市の間に位置しています。〔樹林・拠点〕であり、コゲラ・ゴマダラチョウなどの自然度の高い樹林を指標する生物が生息しています。樹林に沿って流れる柳瀬川は、樹林と水辺が連続する自然の岸辺が残り、〔水辺・回廊〕に位置づけられます。 淵の森と柳瀬川が接する、樹林と河川が一体になった環境が公有地化により保全されています。  ■良好な環境を指標する生きものの確認状況 【樹林】 オオタカ ツミ キビタキ アオゲラ オオムラサキ コゲラ ゴマダラチョウ 【草地】 ホンドキツネ キュウシュウノウサギ ジャノメチョウ 【水辺】 ホンドイタチ カワセミ ミナミメダカ アカガエル類 ホタル類 トウキョウサンショウウオ アユ ウキゴリ

表 2-12 重要エリア・区分地区のエコロジカルネットワークの状況

3 柳瀬川段丘崖周辺エリア	3-3 安松神社周辺地区 安松神社の鎮守の森と一体となった斜面林*と、そこから東に連続する樹林地を含む地区です。〔樹林・拠点〕と〔樹林・回廊〕に位置づけられ、高次消費者*であるツミや自然度の高い樹林環境を指標するアオゲラなどが確認されています。また、地区内には、自然草地も点在し、草地のエコロジカルネットワークも形成されています。 斜面林の一部が保存樹林*として保全されているほか、安松小学校に隣接する林が「学校林*」として利用されています。 
	■良好な環境を指標する生きものの確認状況 〔樹林〕 オオタカ ツミ キビタキ アオゲラ オオムラサキ コゲラ ゴマダラチョウ 〔草地〕 ホンドキツネ キュウシュウノウサギ ジャノメチョウ 〔水辺〕 ホンドイタチ カワセミ ミナミメダカ アカガエル類 ホタル類 トウキョウサンショウウオ アユ ウキゴリ
	3-4 下安松・柳瀬川周辺地区 柳瀬川沿いに〔樹林・拠点〕である河畔林*が連続しています。コゲラやゴマダラチョウなどの自然度の高い樹林を指標する生きものが生息するほか、カワセミやアユなどの良好な水辺を指標する生きものも確認されています。 樹林から河川へと移り変わる場所（エコトーン*）は、魚類をはじめとするさまざまな生きものの重要な生息場所となっています。 
	■良好な環境を指標する生きものの確認状況 〔樹林〕 オオタカ ツミ キビタキ アオゲラ オオムラサキ コゲラ ゴマダラチョウ 〔草地〕 ホンドキツネ キュウシュウノウサギ ジャノメチョウ 〔水辺〕 ホンドイタチ カワセミ ミナミメダカ アカガエル類 ホタル類 トウキョウサンショウウオ アユ ウキゴリ
	3-5 本郷・滝の城址地区 〔樹林・核〕〔樹林・拠点〕である練馬所沢線と関越自動車道の間の柳瀬川段丘崖*上の斜面林、〔草地・核〕である周辺の農地、〔草地・拠点〕である柳瀬川沿いの草地、〔水辺・拠点〕である滝の城址公園の池、〔水辺・回廊〕である柳瀬川など多様な環境で形成されている、エコロジカルネットワークにおいて重要な地区です。 斜面林の一部が、滝の城址公園や公有地化*、保存樹林への指定により保全されているほか、農地は農業振興地域*の農用地区域*として保全されています。 
	■良好な環境を指標する生きものの確認状況 〔樹林〕 オオタカ ツミ キビタキ アオゲラ オオムラサキ コゲラ ゴマダラチョウ 〔草地〕 ホンドキツネ キュウシュウノウサギ ジャノメチョウ 〔水辺〕 ホンドイタチ カワセミ ミナミメダカ アカガエル類 ホタル類 トウキョウサンショウウオ アユ ウキゴリ
	3-6 坂之下周辺地区 〔樹林・拠点〕である関越自動車道より東側の柳瀬川段丘崖上の斜面林や、〔樹林・核〕である柳瀬川周辺の樹林のほか、〔草地・拠点〕である柳瀬川沿いの草地や段丘崖上の草地などの多様な環境から構成される地区です。最高次消費者であるオオタカの繁殖が確認されるなど、エコロジカルネットワークにおいて重要な地区です。 
	■良好な環境を指標する生きものの確認状況 〔樹林〕 オオタカ ツミ キビタキ アオゲラ オオムラサキ コゲラ ゴマダラチョウ 〔草地〕 ホンドキツネ キュウシュウノウサギ ジャノメチョウ 〔水辺〕 ホンドイタチ カワセミ ミナミメダカ アカガエル類 ホタル類 トウキョウサンショウウオ アユ ウキゴリ

表 2-12 重要エリア・区分地区のエコロジカルネットワークの状況

3 柳瀬川段丘崖周辺エリア	3-7 城・東川下流地区 〔樹林・核〕である東川下流沿いに連続する樹林と〔草地・拠点〕である自然草地から構成される地区です。柳瀬川段丘崖*上の樹林と連続して、生きものをまちなかに引き込む場所に位置しています。  ■良好な環境を指標する生きものの確認状況 【樹林】 オオタカ ツミ キビタキ アオゲラ オオムラサキ コゲラ ゴマダラチョウ 【草地】 ホンドキツネ キュウシュウノウサギ ジャノメチョウ 【水辺】 ホンドイタチ カワセミ ミナミメダカ アカガエル類 ホタル類 トウキョウサンショウウオ アユ ウキゴリ
4 林周辺エリア	〔樹林・拠点〕である市街化区域*に隣接する樹林と〔草地・核〕となる樹林と一体となった農地から構成されています。樹林では、高次消費者*であるツミやアオゲラの生息が確認され、農地ではキュウシュウノウサギが確認されています。  ■良好な環境を指標する生きものの確認状況 【樹林】 オオタカ ツミ キビタキ アオゲラ オオムラサキ コゲラ ゴマダラチョウ 【草地】 ホンドキツネ キュウシュウノウサギ ジャノメチョウ 【水辺】 ホンドイタチ カワセミ ミナミメダカ アカガエル類 ホタル類 トウキョウサンショウウオ アユ ウキゴリ
5 三ヶ島周辺エリア	5-1 砂川堀上流地区 〔樹林・拠点〕である砂川堀最上流部の河川沿いの樹林から、上流の小手指ヶ原公園計画地内の樹林、〔草地・核〕である農地を含む地区です。小手指ヶ原公園計画地内の樹林は、面積は大きくはありませんが、オオタカの営巣*記録があります。〔水辺・回廊〕である地区の中央を流れる砂川堀は土の岸边と河畔林*がある良好な環境が残されています。また、当地区は狭山丘陵の生きものを「6 若狭平地林周辺エリア」へとつなぐ場所に位置しています。 現在、砂川堀の河畔林の一部が民間トラスト地*として保全されています。小手指ヶ原公園は都市計画決定が行われており、整備はこれからとなります。 当地区の砂川堀は、生物生息空間として特に貴重であり、改修等を実施する際には、多自然川づくり*などにより河畔林や土の岸边の保全を図り、水辺のエコロジカルネットワークの回廊としての機能を維持することが望まれます。  ■良好な環境を指標する生きものの確認状況 【樹林】 オオタカ ツミ キビタキ アオゲラ オオムラサキ コゲラ ゴマダラチョウ 【草地】 ホンドキツネ キュウシュウノウサギ ジャノメチョウ 【水辺】 ホンドイタチ カワセミ ミナミメダカ アカガエル類 ホタル類 トウキョウサンショウウオ アユ ウキゴリ

表 2-12 重要エリア・区分地区のエコロジカルネットワークの状況

5
ニヶ島周辺エリア

5-2 東川上流地区

東川とその最上流部から市街化区域*内約 500 mまでの区間沿いに分布する樹林を含む地区です。東川は土の岸边や草が生育する区間が連続し、ミナミメダカの生息が確認されています。樹林では高次消費者*であるツミの繁殖が確認されています。狭山丘陵の生きものを東川沿いにまちなかへと導く場所に位置し、まちなかの生物多様性の向上に重要な地区です。

現在、樹林の一部が民間トラスト地*や保存樹林*として保全されています。

当地区の東川は生物生息空間となっているため、改修等を実施する際には、多自然川づくり*などにより河畔林*や土の岸边の保全を図り、水辺のエコロジカルネットワークの回廊としての機能を維持することが望まれます。

■良好な環境を指標する生きものの確認状況

【樹林】 オオタカ ツミ キビタキ アオゲラ オオムラサキ コゲラ ゴマダラチョウ

【草地】 ホンドキツネ キュウシュウノウサギ ジャノメチョウ

【水辺】 ホンドイタチ カワセミ ミナミメダカ アカガエル類 ホタル類 トウキョウサンショウウオ アユ ウキゴリ

6
若狭平地林周辺エリア

6-1 若狭市街地地区

【樹林・拠点】である市街化区域の2か所の樹林を含む地区です。高次消費者であるツミや良好な樹林環境を指標するコゲラ、ゴマダラチョウの生息が確認されています。生きものが豊かなまちなかの樹林の拠点であり、身近な自然とのふれあいの場として重要です。北側の樹林は「6-2 若狭・北野周辺地区」の樹林と回廊でネットワークされています。

両樹林ともに、市民の森*として保全されており、生きものの生息に配慮した管理の実施が望まれます。

■良好な環境を指標する生きものの確認状況

【樹林】 オオタカ ツミ キビタキ アオゲラ オオムラサキ コゲラ ゴマダラチョウ

【草地】 ホンドキツネ キュウシュウノウサギ ジャノメチョウ

【水辺】 ホンドイタチ カワセミ ミナミメダカ アカガエル類 ホタル類 トウキョウサンショウウオ アユ ウキゴリ

6-2 若狭・北野周辺地区

【樹林・核】となる規模の大きい樹林や【樹林・拠点】となる複数の樹林のほか、【草地・拠点】となる砂川堀北野調整池の草地、【水辺・回廊】となる砂川堀などの多様な環境から構成され、樹林、草地、水辺の良好な環境を指標する生きものが生息しています。「1 狭山丘陵エリア」と「2 三富・くぬぎ山・北中平地林周辺エリア」をつなぐ、重要な場所に位置しています。

樹林の広い範囲がふるさとの緑の景観地*に指定されており、一部は保存樹林や民間トラスト地*として保全されています。地区の南西部の砂川堀は「5-1 砂川堀上流地区」から連続するエコロジカルネットワークの形成上重要な回廊です。

■良好な環境を指標する生きものの確認状況

【樹林】 オオタカ ツミ キビタキ アオゲラ オオムラサキ コゲラ ゴマダラチョウ

【草地】 ホンドキツネ キュウシュウノウサギ ジャノメチョウ

【水辺】 ホンドイタチ カワセミ ミナミメダカ アカガエル類 ホタル類 トウキョウサンショウウオ アユ ウキゴリ

表 2-12 重要エリア・区分地区のエコロジカルネットワークの状況

7 北原町平地林周辺エリア

〔樹林・核〕である樹林1か所と〔樹林・拠点〕である樹林4か所のほか、〔草地・拠点〕である小面積の草地から構成されています。最高次消費者であるオオタカの営巣*記録のほか、自然度の高い樹林の指標種*が確認されています。「2 三富・くぬぎ山・北中平地林周辺エリア」と「13 並木・中新井周辺エリア」をつなぐ場所に位置し、まちに生きものを導くために重要な機能を有しています。

エリア北側の樹林が保存樹林として保全されています。



■良好な環境を指標する生きものの確認状況

【樹林】 オオタカ ツミ キビタキ アオゲラ オオムラサキ コゲラ ゴマダラチョウ

【草地】 ホンドキツネ キュウシュウノウサギ ジャノメチョウ

【水辺】 ホンドイタチ カワセミ ミナミメダカ アカガエル類 ホタル類 トウキョウサンショウウオ アユ ウキゴリ

8-1 牛沼市民の森周辺地区

〔樹林・拠点〕である牛沼市民の森*や屋敷林*の樹林と〔草地・拠点〕となる東川沿いの草地で構成されています。ツミやアオゲラなどの良好な樹林環境を示す生きものが確認されています。



■良好な環境を指標する生きものの確認状況

【樹林】 オオタカ ツミ キビタキ アオゲラ オオムラサキ コゲラ ゴマダラチョウ

【草地】 ホンドキツネ キュウシュウノウサギ ジャノメチョウ

【水辺】 ホンドイタチ カワセミ ミナミメダカ アカガエル類 ホタル類 トウキョウサンショウウオ アユ ウキゴリ

8 所沢カルチャーパーク周辺エリア

8-2 所沢カルチャーパーク周辺地区

〔樹林・核〕である所沢カルチャーパークと一体となった樹林と〔樹林・拠点〕である周辺に点在する樹林のほか、〔草地・拠点〕である所沢カルチャーパークの草地や調節池*の草地、〔水辺・拠点〕である調節池の水面などの多様な環境から構成される地区です。こうした環境を反映して、樹林、草地、水辺の良好な環境を指標する生きものが確認されています。地区の西と南が市街化区域*に隣接し、まちなかへの生きものの供給元として重要な地区です。

都市公園*である所沢カルチャーパーク内の樹林と草地のほか、一部が保存樹林*、公有地化*により保全されています。



■良好な環境を指標する生きものの確認状況

【樹林】 オオタカ ツミ キビタキ アオゲラ オオムラサキ コゲラ ゴマダラチョウ

【草地】 ホンドキツネ キュウシュウノウサギ ジャノメチョウ

【水辺】 ホンドイタチ カワセミ ミナミメダカ アカガエル類 ホタル類 トウキョウサンショウウオ アユ ウキゴリ

8-3 日比田調節池地区

日比田調節池は、〔草地・拠点〕や〔水辺・拠点〕になることが想定されます。すでにカワセミやカモ類などの飛来が見られ、市内では数少ない水辺の拠点になることが期待されます。



■良好な環境を指標する生きものの確認状況

【樹林】 オオタカ ツミ キビタキ アオゲラ オオムラサキ コゲラ ゴマダラチョウ

【草地】 ホンドキツネ キュウシュウノウサギ ジャノメチョウ

【水辺】 ホンドイタチ カワセミ ミナミメダカ アカガエル類 ホタル類 トウキョウサンショウウオ アユ ウキゴリ

表 2-12 重要エリア・区分地区のエコロジカルネットワークの状況

9 南永井周辺エリア	9-1 南永井東部地区 〔樹林・拠点〕である屋敷林*や小規模な樹林、〔草地・拠点〕である休耕地*などから構成される地区です。良好な樹林環境を指標する生きものが確認されています。 
	■良好な環境を指標する生きものの確認状況 【樹林】 オオタカ ツミ キビタキ アオゲラ オオムラサキ コゲラ ゴマダラチョウ 【草地】 ホンドキツネ キュウシュウノウサギ ジャノメチョウ 【水辺】 ホンドイタチ カワセミ ミナミメダカ アカガエル類 ホタル類 トウキョウサンショウウオ アユ ウキゴリ
	9-2 南永井西部地区 〔樹林・拠点〕である屋敷林や小規模な樹林、〔草地・拠点〕である休耕地などから構成される地区です。良好な樹林環境を指標する生きものが確認されています。 農地は農業振興地域*の農用地区域*として保全されています。 
	■良好な環境を指標する生きものの確認状況 【樹林】 オオタカ ツミ キビタキ アオゲラ オオムラサキ コゲラ ゴマダラチョウ 【草地】 ホンドキツネ キュウシュウノウサギ ジャノメチョウ 【水辺】 ホンドイタチ カワセミ ミナミメダカ アカガエル類 ホタル類 トウキョウサンショウウオ アユ ウキゴリ
10 椿峰周辺エリア	狭山丘陵の一部を造成して開発した椿峰ニュータウンのエリアです。公園緑地として保全された樹林や植栽樹木が一体となって〔樹林・拠点〕となっています。狭山丘陵の生きものをまちなかに導く場所に位置し、良好な樹林環境を指標する生きものが確認されています。 樹林の大部分は公園緑地や植栽樹木となっています。 
	■良好な環境を指標する生きものの確認状況 【樹林】 オオタカ ツミ キビタキ アオゲラ オオムラサキ コゲラ ゴマダラチョウ 【草地】 ホンドキツネ キュウシュウノウサギ ジャノメチョウ 【水辺】 ホンドイタチ カワセミ ミナミメダカ アカガエル類 ホタル類 トウキョウサンショウウオ アユ ウキゴリ
11 小手指駅周辺エリア	団地、マンション、公園、商業施設の植栽地が、〔樹林・拠点〕となっています。まちなかに位置し、植栽樹が主体です。「6 若狭平地林周辺エリア」の生きものをまちなかに導く、エコロジカルネットワークにおいて重要な場所に位置しています。 
	■良好な環境を指標する生きものの確認状況 【樹林】 オオタカ ツミ キビタキ アオゲラ オオムラサキ コゲラ ゴマダラチョウ 【草地】 ホンドキツネ キュウシュウノウサギ ジャノメチョウ 【水辺】 ホンドイタチ カワセミ ミナミメダカ アカガエル類 ホタル類 トウキョウサンショウウオ アユ ウキゴリ

表 2-12 重要エリア・区分地区のエコロジカルネットワークの状況

12 新所沢駅周辺エリア

団地や小学校（清進小学校）の植栽地、公園（緑町中央公園）の残存樹林等が、[樹林・拠点] になっています。「6 若狭平地林周辺エリア」と「13 並木・中新井エリア」の間に位置し、まちなかの生きものの移動経路としても重要なエリアです。



■良好な環境を指標する生きものの確認状況

【樹林】 オオタカ ツミ キビタキ アオゲラ オオムラサキ **コゲラ** ゴマダラチョウ

【草地】 ホンドキツネ キュウシュウノウサギ ジャノメチョウ

【水辺】 ホンドイタチ カワセミ ミナミメダカ アカガエル類 ホタル類 トウキョウサンショウウオ アユ ウキゴリ

13 並木・中新井周辺エリア

所沢航空記念公園をはじめとする大規模な公共施設や団地、学校、体育館のほか、米軍所沢通信基地が分布しており、[樹林・拠点] である植栽地の樹林や、[草地・拠点] である人工草地及び米軍所沢通信基地の自然草地によって構成されています。

植栽地であることや人による影響により、良好な環境を指標する生きものの確認状況は、当エリアの東側に隣接する「7 北原町平地林周辺エリア」等と比較するとやや限定されています。



■良好な環境を指標する生きものの確認状況

【樹林】 オオタカ ツミ キビタキ アオゲラ オオムラサキ **コゲラ** ゴマダラチョウ

【草地】 ホンドキツネ キュウシュウノウサギ **ジャノメチョウ**

【水辺】 ホンドイタチ カワセミ ミナミメダカ アカガエル類 ホタル類 トウキョウサンショウウオ アユ ウキゴリ

14 エステシティ周辺エリア

[樹林・拠点] である日本大学芸術学部の樹木植栽地や[草地・拠点] である人工草地、調整池の草地、[水辺・拠点] である調節池*の小さな水面などから構成されています。

良好な環境を指標する生きものは、調整池の水辺にカワセミの飛来が確認されています。



■良好な環境を指標する生きものの確認状況

【樹林】 オオタカ ツミ キビタキ アオゲラ オオムラサキ **コゲラ** ゴマダラチョウ

【草地】 ホンドキツネ キュウシュウノウサギ ジャノメチョウ

【水辺】 ホンドイタチ **カワセミ** ミナミメダカ アカガエル類 ホタル類 トウキョウサンショウウオ アユ ウキゴリ

■各エリア・地区共通記載事項

- ・緑地保全制度*による保全指定や公有地化*等によって保全されている樹林、草地、水辺は、「みどりのパートナー*」などの協力のもと、生物生息空間としての質を高める維持管理を実施することが望まれます。
- ・保全されていない樹林、草地、水辺については、緑地保全制度による保全指定などにより、生物生息空間としての永続性を確保することが望まれます。